

駅利用者調査 報告書

平成 29 年 11 月

広島安芸商工会

府中町商工会

広島東商工会

目 次

第1章 調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	1
4. 調査結果の見方	1

第2章 調査結果

1. 回答者の属性	3
2. 現在の状況について	8
3. 最寄駅について	9
4. 移動手段について	11
5. 駅の利用頻度について	21
6. 駅の利用時間について	23
7. 本日の行動内容について	31

第3章 調査結果のまとめ 41

<参考資料>

1. 調査票	55
2. まちづくりの有望事例	57

第 1 章 調 査 概 要

第1章 調査概要

1. 調査目的

駅の利用状況や消費動向を把握し、小売事業者やサービス事業者の販路力強化のための基礎資料として活用するため本調査を実施した。

2. 調査方法

調査員によるヒアリング調査

(1) 調査地点

J R 海田市駅、J R 矢野駅、J R 向洋駅

(2) 調査対象者

調査対象駅の電車利用者

(3) 調査期間

調査日：9月8日（金）、9月9日（土）

調査時間：10：00～17：00

3. 回収結果

	回収数
J R 海田市駅	222
J R 矢野駅	212
J R 向洋駅	242
合 計	676

4. 調査結果の見方

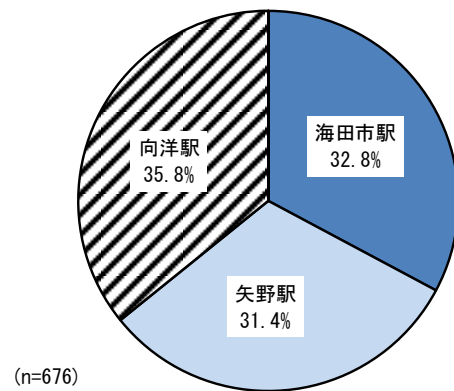
- (1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（％）で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

第 2 章 調 査 結 果

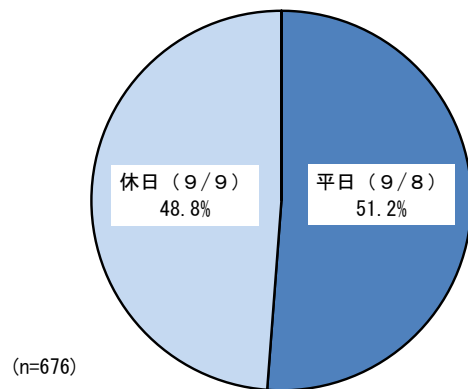
第2章 調査結果

1. 回答者の属性

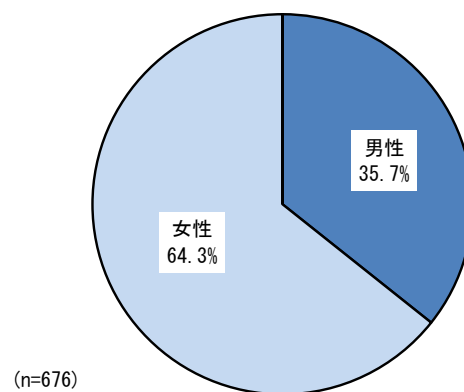
(1) 調査場所



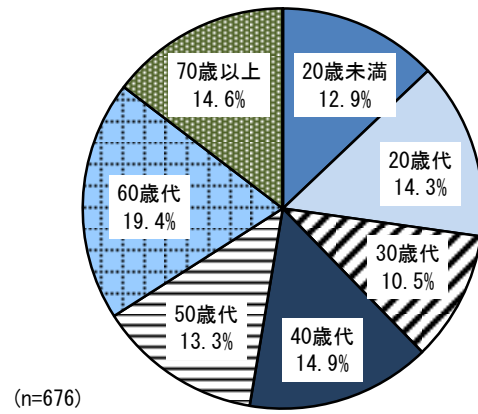
(2) 調査日



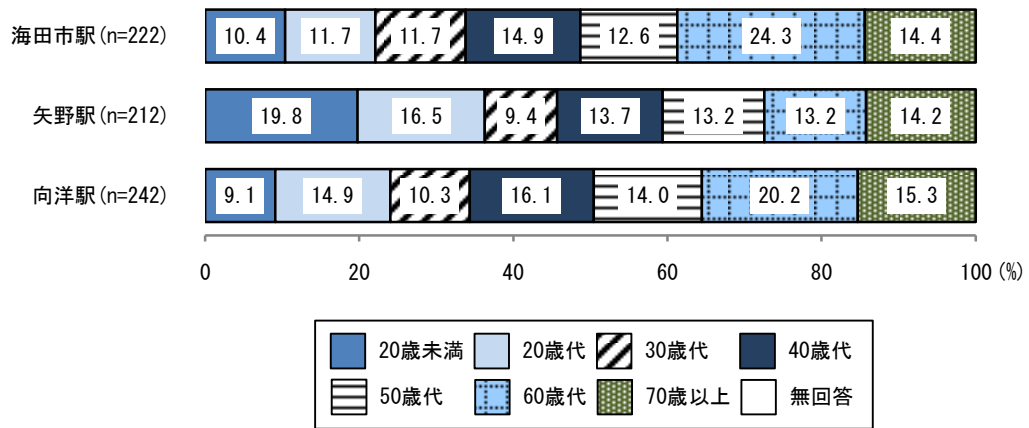
(3) 性別



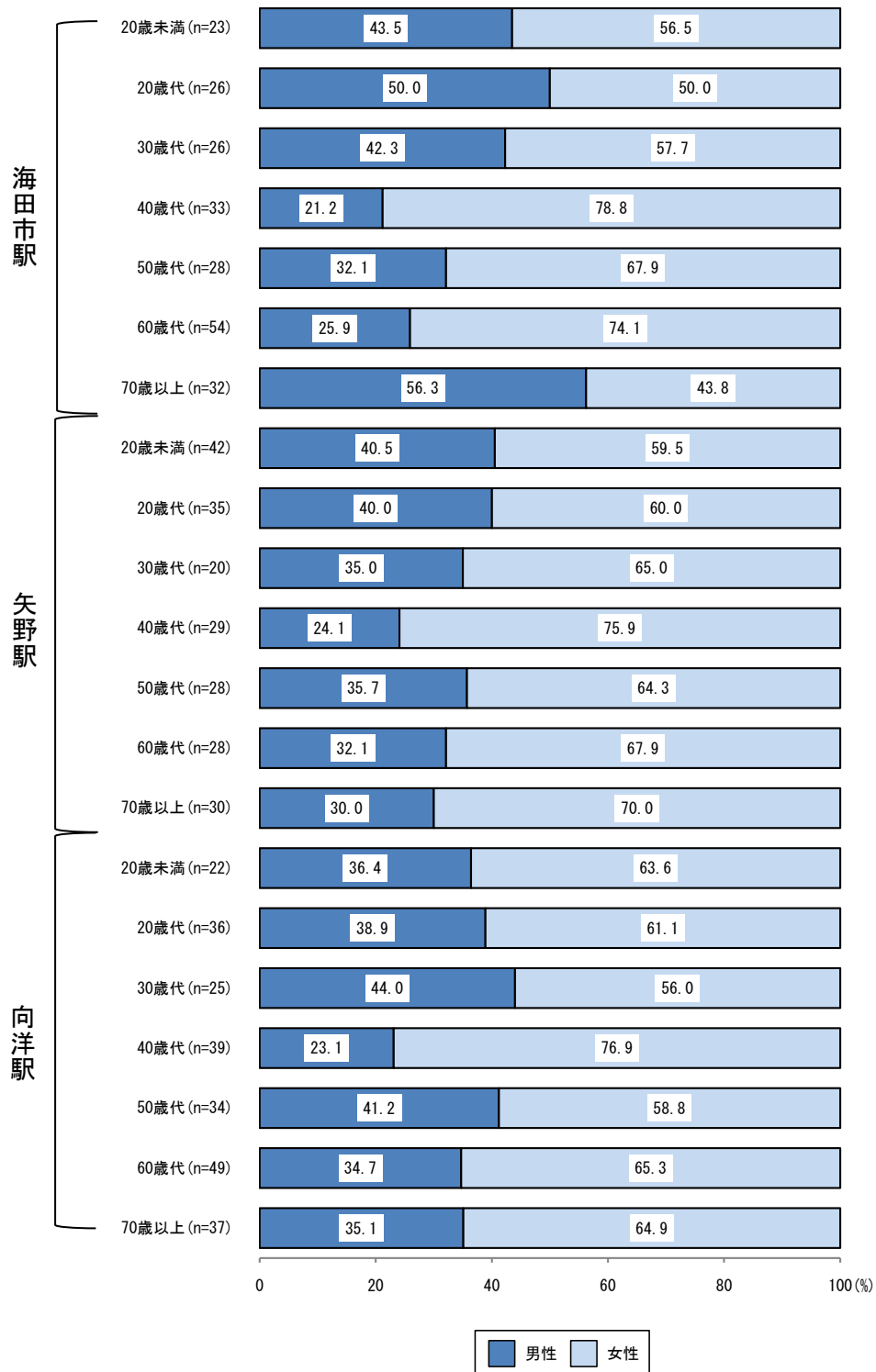
(4) 年齢



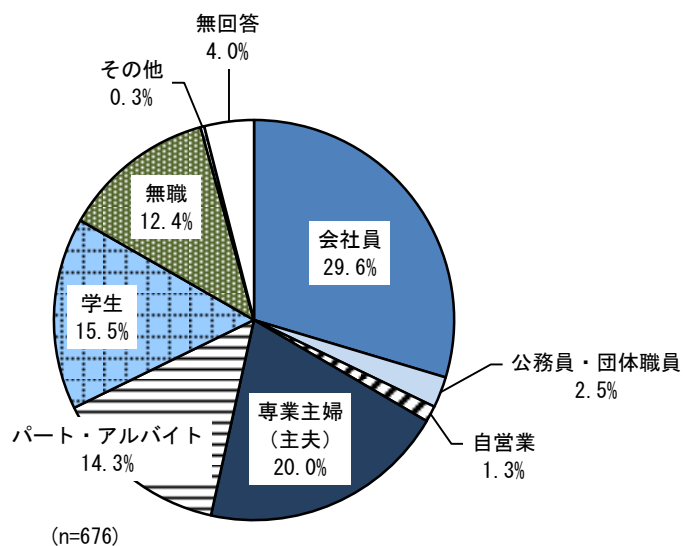
【図表 年齢（調査場所別）】



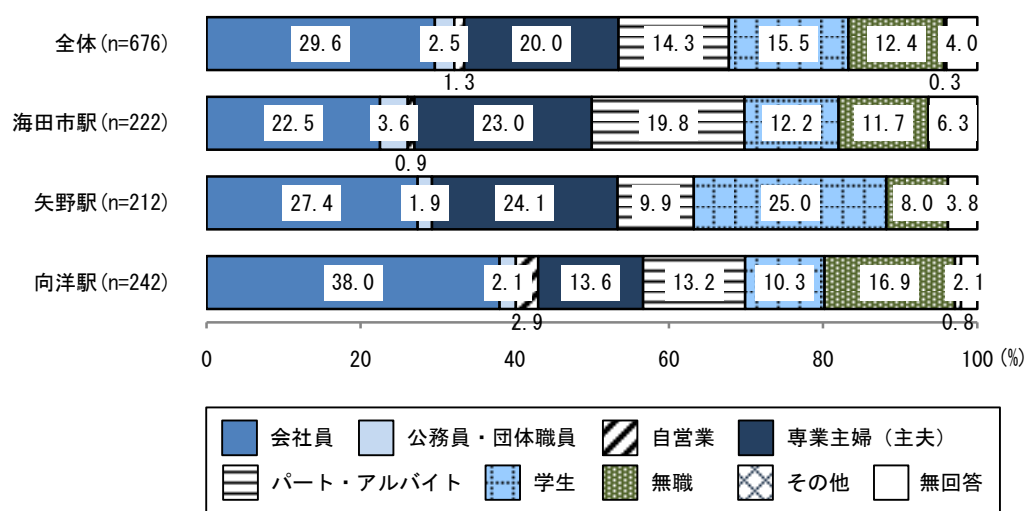
【図表 性・年齢（調査場所別）】



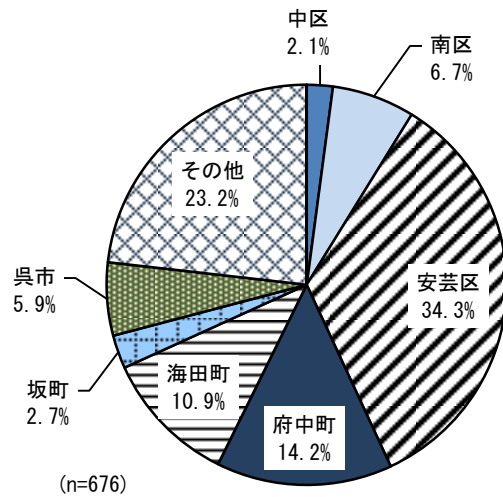
(5) 職業



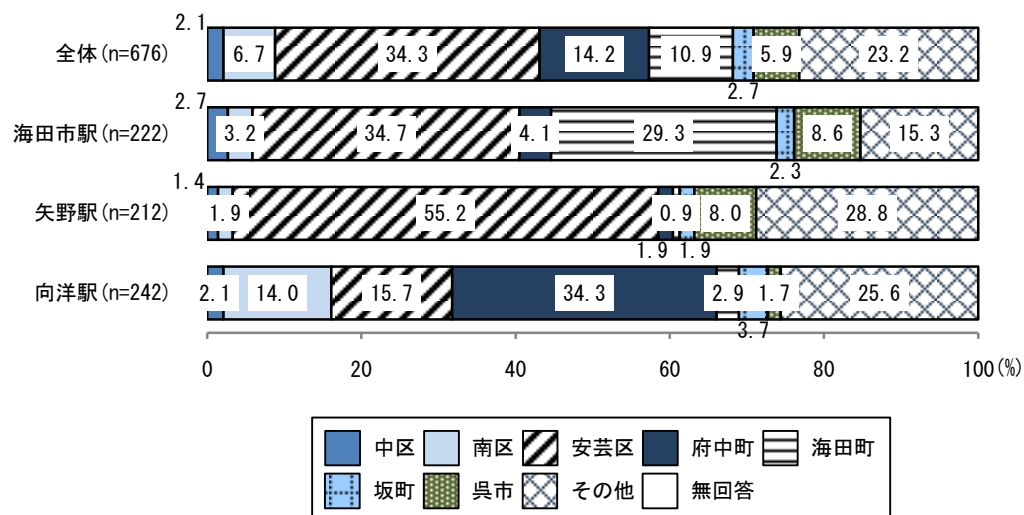
【図表 職業 (調査場所別)】



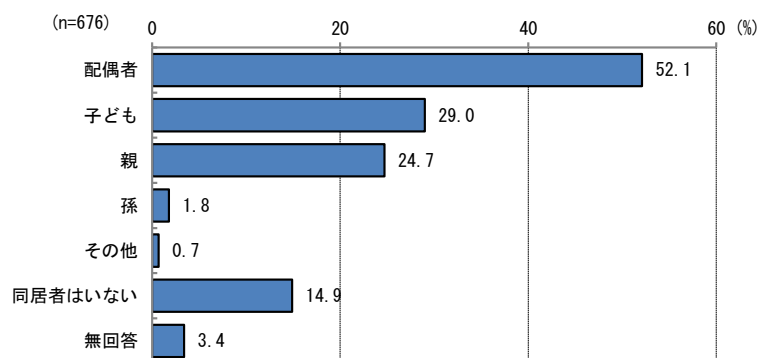
(6) 居住地区



【図表 居住地区（調査場所別）】



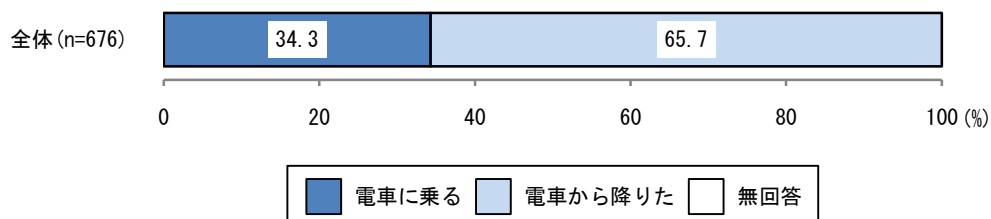
(7) 同居者



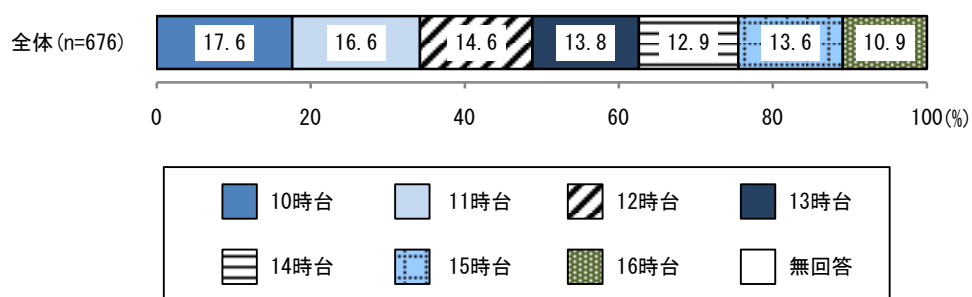
2. 現在の状況について

問1 現在の状況をお答えください。(1つに○)
また、この調査票を受取った時刻はいつですか？

①調査時の状況

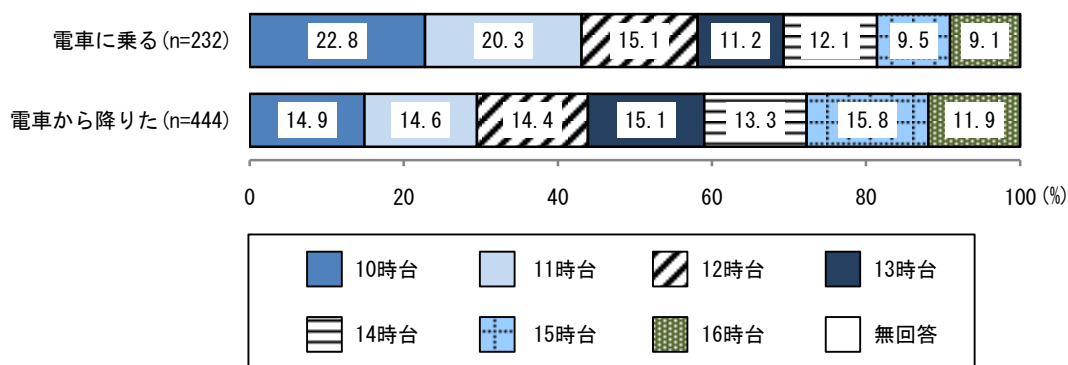


②調査票受取時刻



調査時の状況について、乗車時が3割台半ば、降車時が6割台半ばとなっている。
調査票受取時刻について、すべての時間帯で1割台と均等にアンケートの配布・回収を行った。

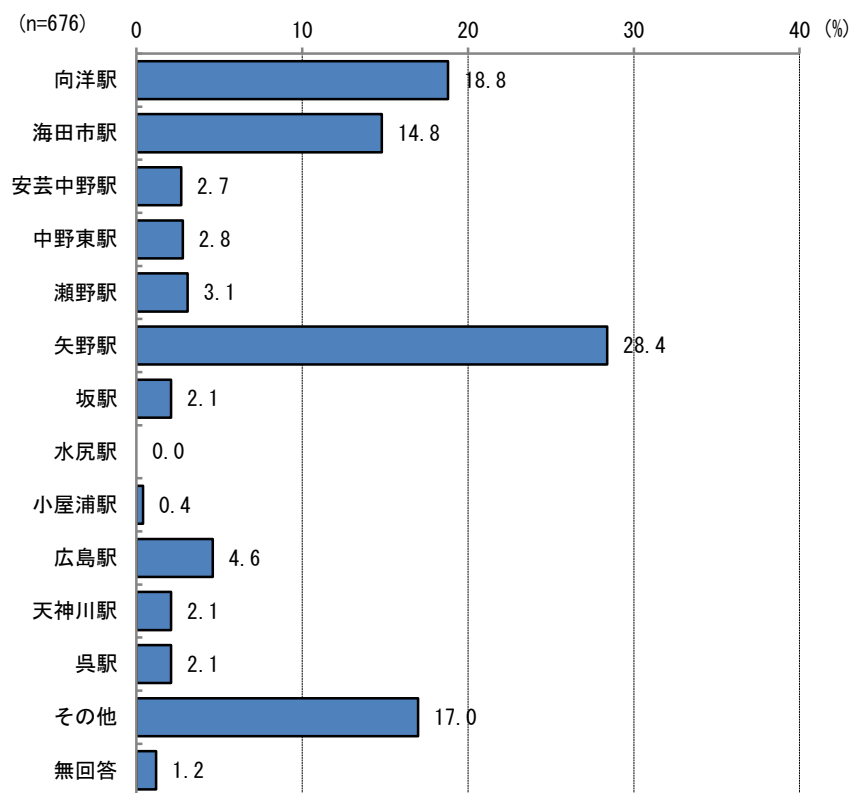
【図表 調査票受取時刻（電車の乗降状況別）】



調査票受取時刻について、電車の乗降状況別にみると、乗車時は午前中が4割台半ば、降車時はすべての時間帯で1割台となっている。

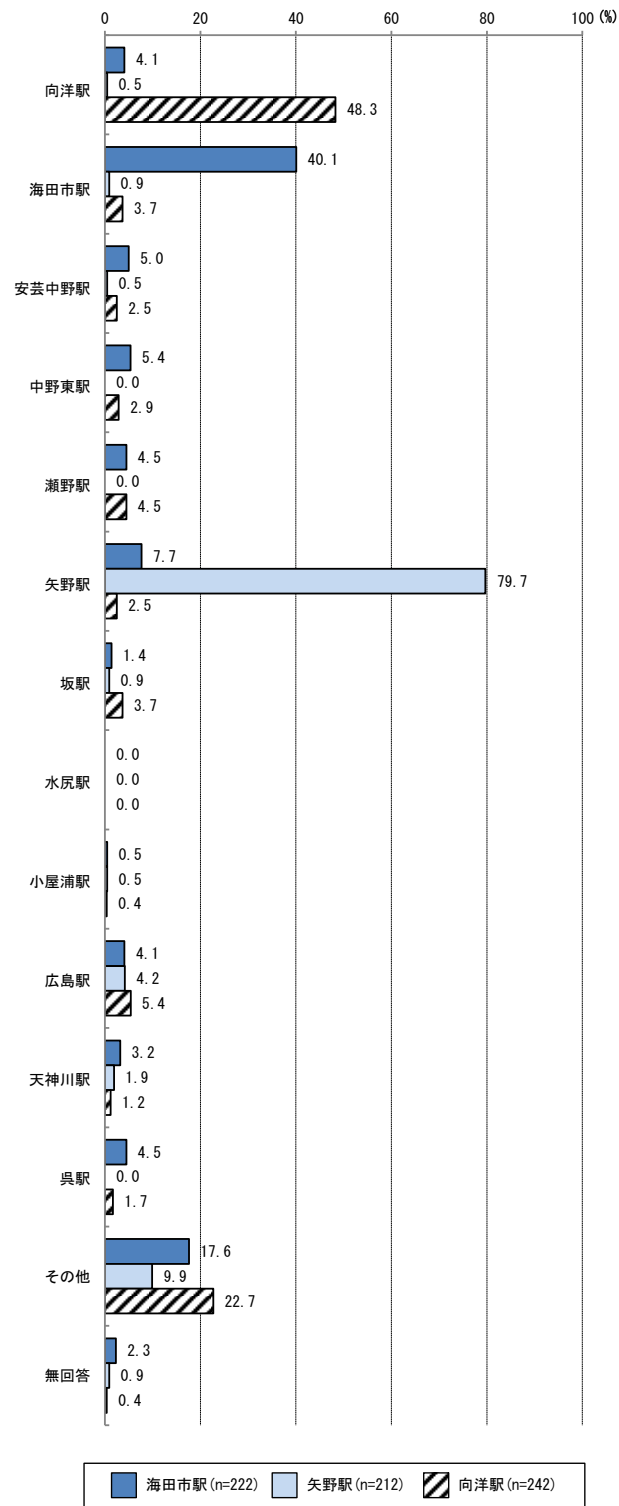
3. 最寄駅について

問2 自宅の最寄り駅をお答えください。(1つに○)



自宅の最寄り駅について、「矢野駅」との回答が 28.4%と最も高く、次いで「向洋駅」(18.8%)、「海田市駅」(14.8%) などの順となっている。

【図表 自宅の最寄り駅（調査場所別）】



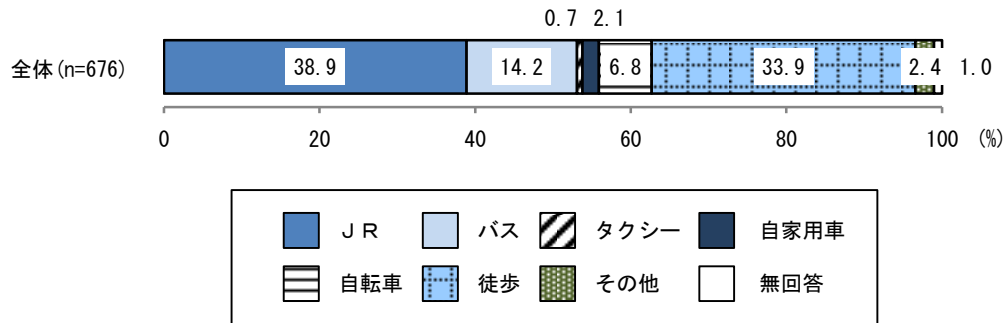
自宅の最寄り駅について、調査場所別にみると、駅が所在している地区を除いた場合、海田市駅では「中野東駅」、「矢野駅」、「呉駅」との回答が他と比べて高くなっている。

4. 移動手段について

問3 自宅等から当駅まで、当駅から目的地までの移動手段について、下表より番号をお選び下さい。また、目的地の施設・所在地をご記入ください。

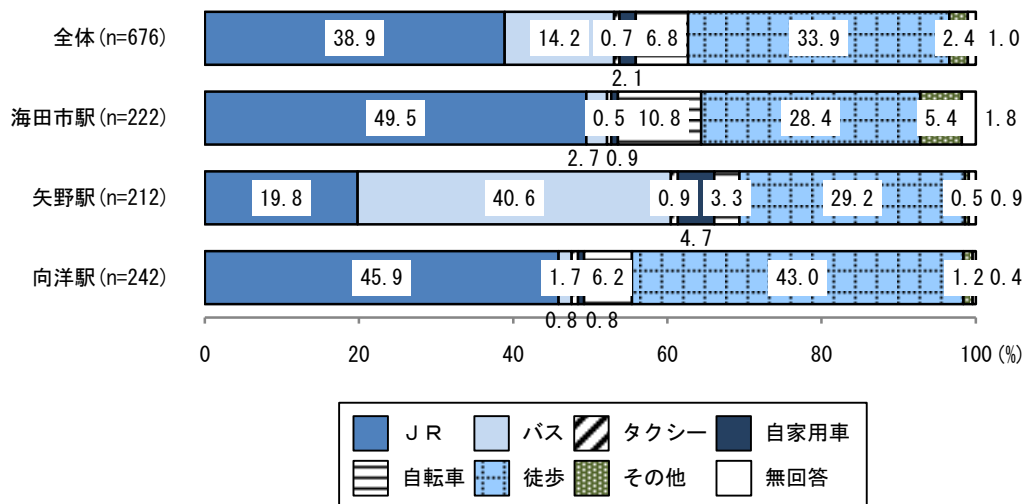
※交通機関を複数利用した場合は、最も所要時間が長いものを1つお選びください。

①居住地から調査地点までの移動手段



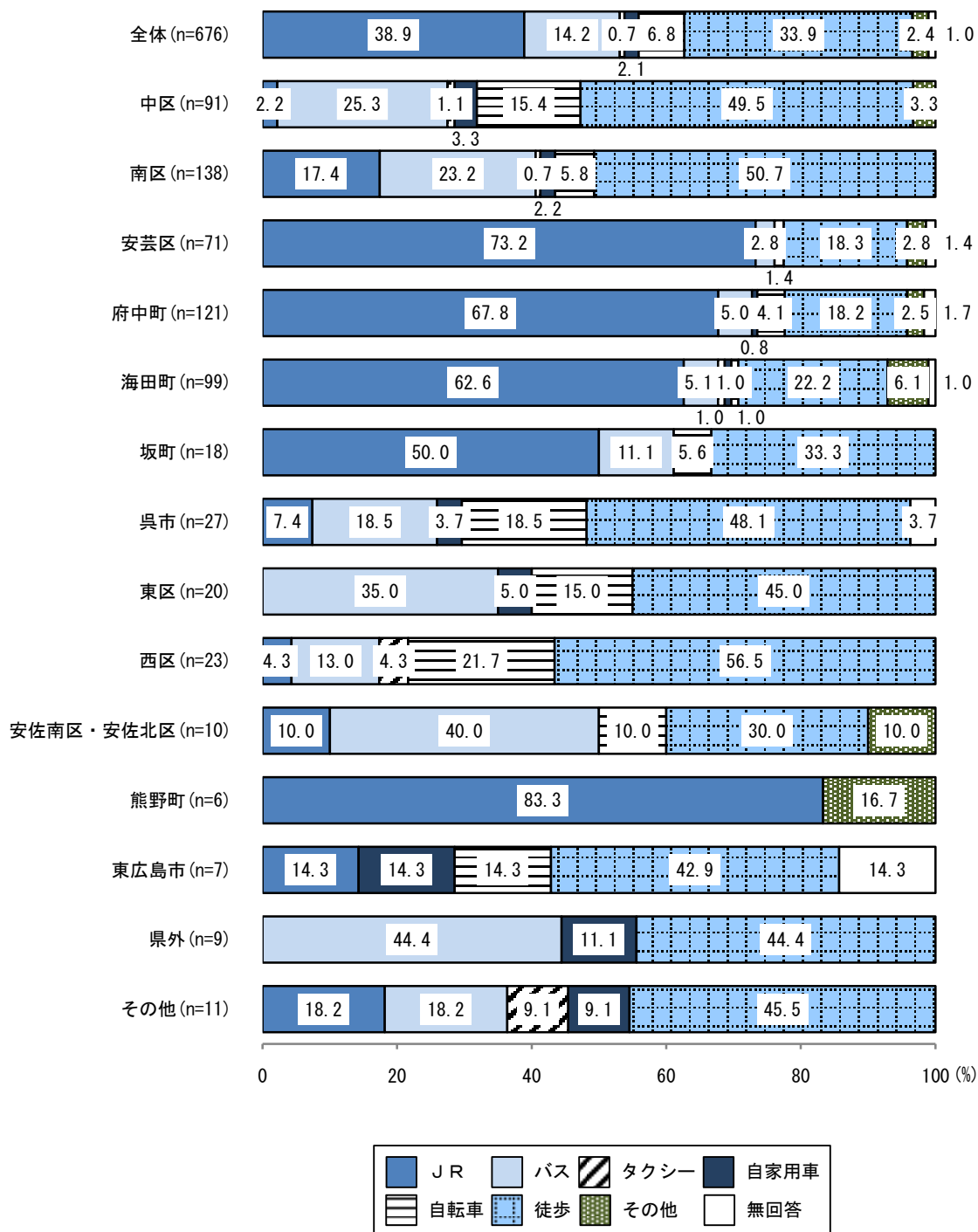
居住地から調査地点までの移動手段について、「J R」との回答が38.9%と最も高く、次いで「徒歩」(33.9%)、「バス」(14.2%)、「自転車」(6.8%)などの順となっている。

【図表 居住地から調査地点までの移動手段（調査場所別）】



居住地から調査地点までの移動手段について、調査場所別にみると、海田市駅、向洋駅は「J R」との回答が4割台、矢野駅は「バス」との回答が約4割、向洋駅は「徒歩」との回答が4割台半ばと高くなっている。

【図表 居住地から調査地点までの移動手段（目的地別）】



居住地から調査地点までの移動手段について、目的地別にみると、「JR」との回答は安芸区、府中町、海田町で6割以上、「バス」との回答は東区で3割台半ば、「自転車」との回答は呉市、西区で2割前後、「徒歩」との回答は中区、南区、呉市、西区で5割前後と高くなっている。

【図表 居住地から調査地点までの移動手段（利用目的別）】

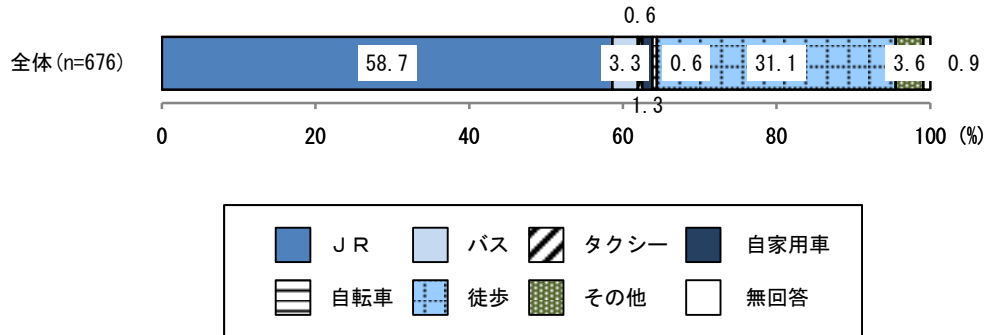
		(%)							
		J R	徒 歩	バ ス	自 転 車	自 家 用 車	タ ク シ ー	そ の 他	無 回 答
全 体 (n=676)		38.9	33.9	14.2	6.8	2.1	0.7	2.4	1.0
利 用 目 的 別	買い物 (n=154)	42.2	35.7	9.1	7.8	1.3	0.6	1.9	1.3
	飲食店 (n=57)	71.9	14.0	1.8	0.0	0.0	0.0	7.0	5.3
	通勤通学 (n=63)	85.7	7.9	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	通院 (n=62)	85.5	11.3	1.6	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0

※利用目的は上位項目のみ掲載

居住地から調査地点までの移動手段について、利用目的別にみると、「J R」との回答は通勤通学、通院で8割台半ば、「徒歩」との回答は買い物で3割台半ばと高くなっている。また、「自転車」、「自家用車」、「タクシー」は飲食店、通勤通学、通院の目的で利用されていない。

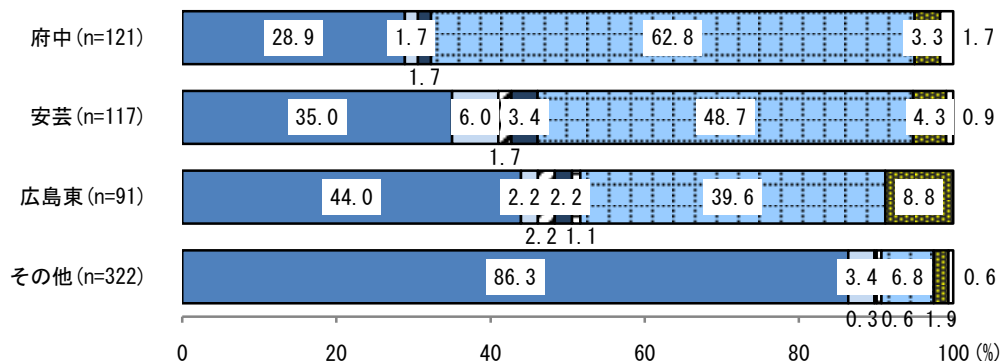
問3 自宅等から当駅まで、当駅から目的地までの移動手段について、下表より番号をお選び下さい。また、目的地の施設・所在地をご記入ください。
 ※交通機関を複数利用した場合は、最も所要時間が長いものを1つお選びください。

②調査地点から目的地までの移動手段



調査地点から目的地までの移動手段について、「J R」との回答が58.7%と最も高く、次いで「徒歩」(31.1%)、「バス」(3.3%)、「自家用車」(1.3%)などの順となっている。

【図表 調査地点から目的地までの移動手段（目的地の地区別）】



安芸は安芸区船越と船越以外の安芸区で分けられない為、広島東に分類しました。

※地区分類方法

府中…府中町

安芸…海田町、坂町

広島東…安芸区、東区

その他…中区、南区、呉市、西区、安佐南区・安佐北区、熊野町、東広島市、県外、その他

調査地点から目的地までの移動手段について、目的地の地区別にみると、「J R」との回答はその他地域で8割台半ば、「徒歩」との回答は府中で6割超と高くなっている。

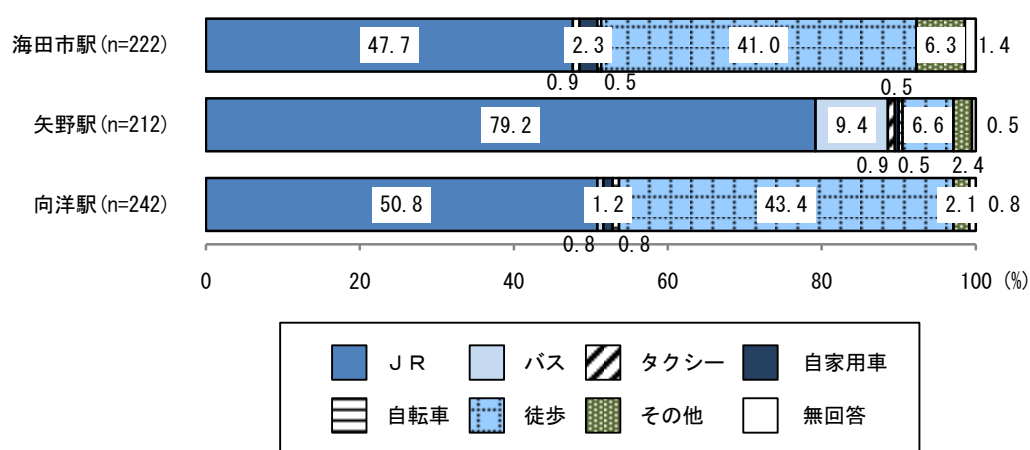
【図表 調査地点から目的地までの移動手段（利用目的別）】

		(%)							
		J R	徒歩	バス	自家用車	タクシー	自転車	その他	無回答
全 体 (n=676)		58.7	31.1	3.3	1.3	0.6	0.6	3.6	0.9
利用目的別	買い物 (n=154)	57.8	32.5	0.6	1.3	0.0	1.3	5.8	0.6
	飲食店 (n=57)	19.3	66.7	0.0	5.3	1.8	0.0	3.5	3.5
	通勤通学 (n=63)	12.7	79.4	1.6	0.0	0.0	1.6	4.8	0.0
	通院 (n=62)	16.1	80.6	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0

※利用目的は上位項目のみ掲載

調査地点から目的地までの移動手段について、利用目的別にみると、「J R」との回答は買い物で約6割、「徒歩」との回答は通勤通学、通院で8割前後と高くなっている。

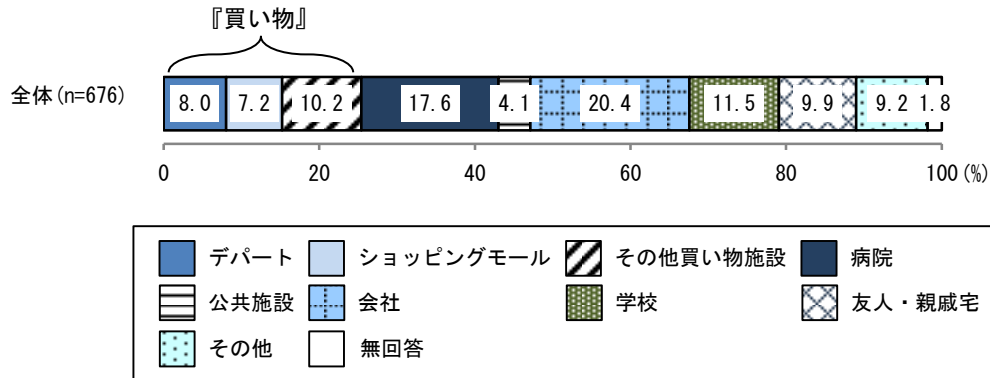
【図表 調査地点から目的地までの移動手段（調査場所別）】



調査地点から目的地までの移動手段について、調査場所別にみると、矢野駅は「J R」との回答が約8割、海田市駅、向洋駅は「徒歩」との回答が4割台と高くなっている。

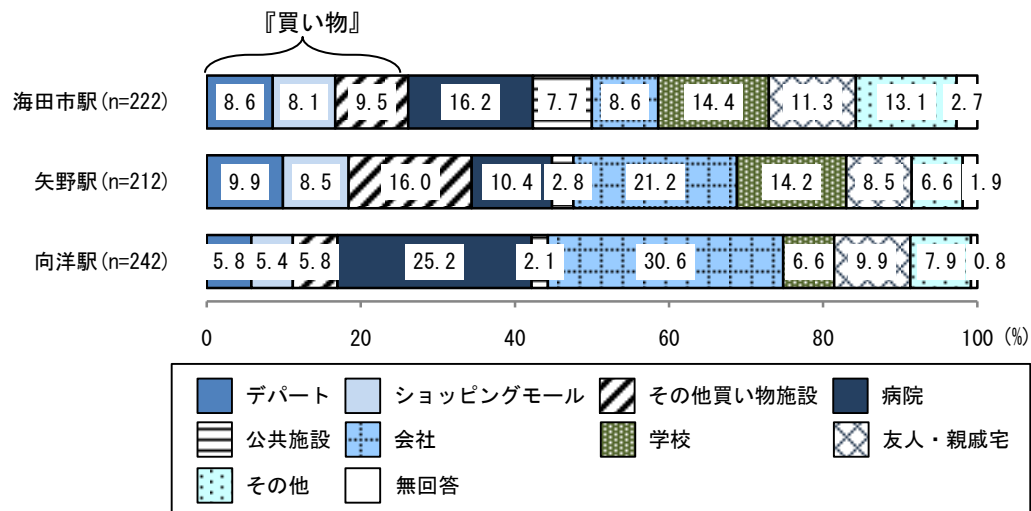
問3 自宅等から当駅まで、当駅から目的地までの移動手段について、下表より番号をお選び下さい。また、目的地の施設・所在地をご記入ください。
 ※交通機関を複数利用した場合は、最も所要時間が長いものを1つお選びください。

③目的地の施設



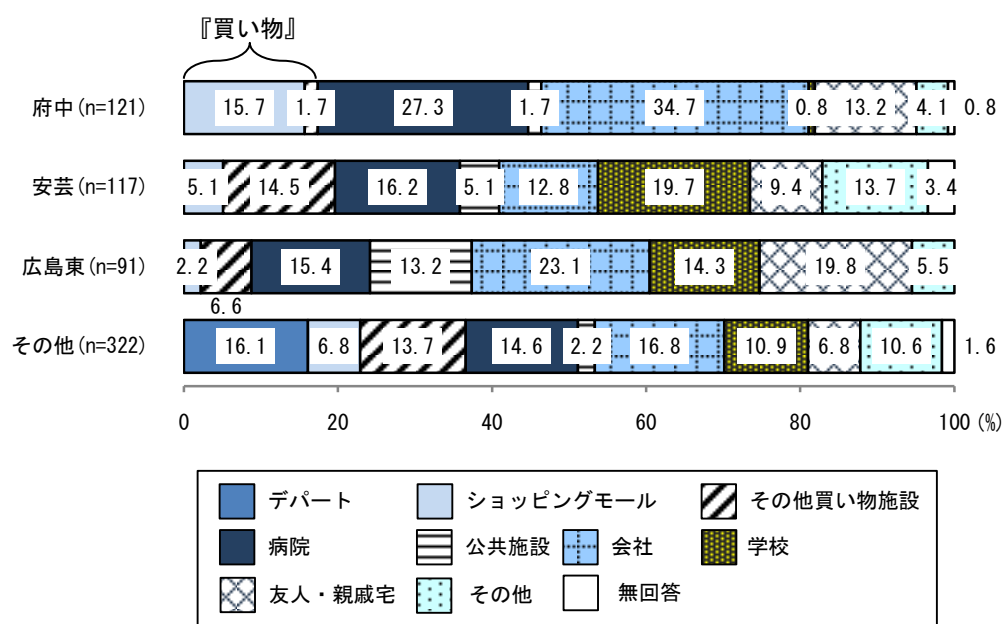
目的地の施設では、「会社」との回答が20.4%と最も高く、次いで「病院」(17.6%)、「学校」(11.5%)、「その他買い物施設」(10.2%)、「友人・親戚宅」(9.9%)などの順となっている。

【図表 目的地の施設（調査場所別）】



目的地の施設について、調査場所別にみると、矢野駅は「その他買い物施設」との回答が1割台半ば、向洋駅は「病院」との回答が2割台半ば、向洋駅は「会社」との回答が約3割と高くなっている。

【図表 目的地の施設（目的地の地区別）】

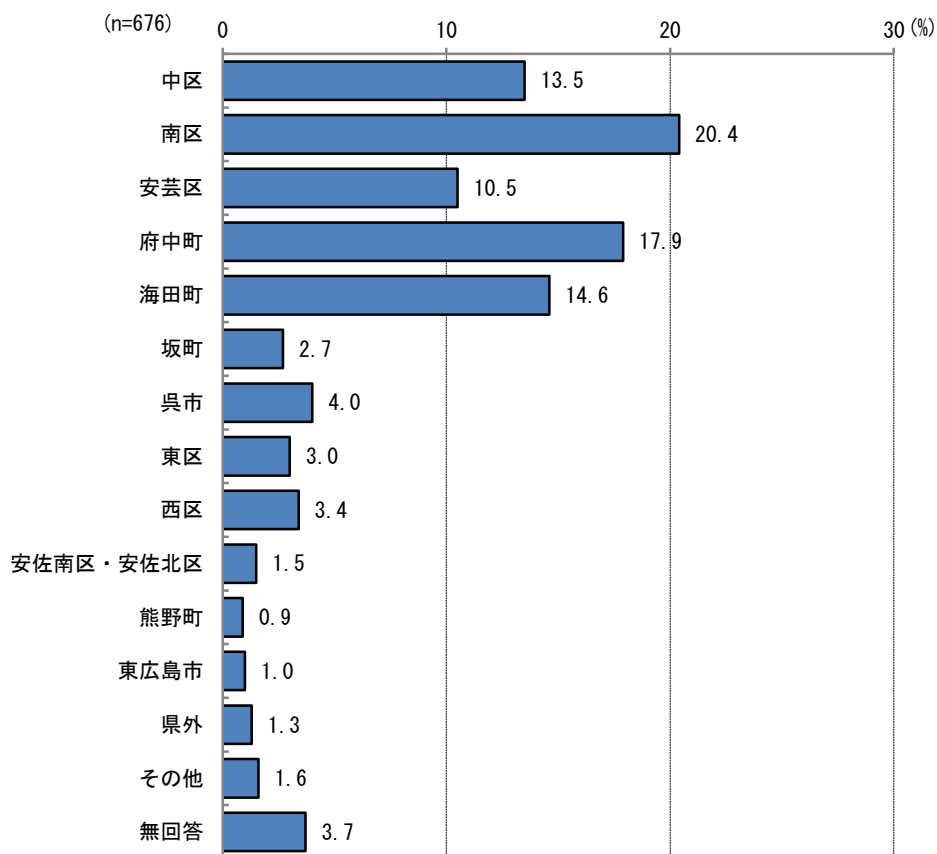


目的地の施設について、目的地の地区別にみると、「デパート」との回答はその他地域で1割台半ば、「ショッピングモール」との回答は府中地域で1割台半ば、「病院」との回答は府中地域で約3割、「会社」との回答は府中地域で3割台半ば、「学校」との回答は安芸地域で約2割、「友人・親戚宅」との回答は広島東地域で約2割と高くなっている。

問3 自宅等から当駅まで、当駅から目的地までの移動手段について、下表より番号をお選び下さい。また、目的地の施設・所在地をご記入ください。

※交通機関を複数利用した場合は、最も所要時間が長いものを1つお選びください。

④目的地の所在地



目的地の所在地について、「南区」との回答が20.4%と最も高く、次いで「府中町」(17.9%)、「海田町」(14.6%)、「中区」(13.5%)、「安芸区」(10.5%)などの順となっている。

商工会管轄地域(安芸区・府中町・海田町・坂町・東区)が目的地の人は約5割、商工会管轄地域外が目的地の人は約5割と半数に分かれている。

【図表 目的地の所在地（利用目的別）】

		(%)							
		中 区	南 区	安 芸 区	府 中 町	海 田 町	坂 町	呉 市	東 区
全 体 (n=676)		13.5	20.4	10.5	17.9	14.6	2.7	4.0	3.0
利用 目的 別	買い物 (n=154)	11.0	19.5	19.5	14.3	13.0	2.6	5.2	2.6
	飲食店 (n=57)	1.8	1.8	24.6	17.5	36.8	0.0	3.5	0.0
	通勤通学 (n=63)	1.6	11.1	9.5	50.8	12.7	0.0	1.6	0.0
	通院 (n=62)	0.0	14.5	11.3	46.8	21.0	0.0	0.0	0.0
		西 区	安 佐 南 区 ・ 安 佐 北 区	熊 野 町	東 広 島 市	県 外	そ の 他	無 回 答	
全 体 (n=676)		3.4	1.5	0.9	1.0	1.3	1.6	3.7	
利用 目的 別	買い物 (n=154)	3.9	2.6	0.0	1.3	1.9	0.6	1.9	
	飲食店 (n=57)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	10.5	
	通勤通学 (n=63)	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	9.5	
	通院 (n=62)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	

※利用目的は上位項目のみ掲載

目的地の所在地について、利用目的別にみると、「安芸区」との回答は飲食店で2割台半ば、「府中町」との回答は通勤通学、通院で5割前後、「海田町」との回答は飲食店で3割台半ばと高くなっている。

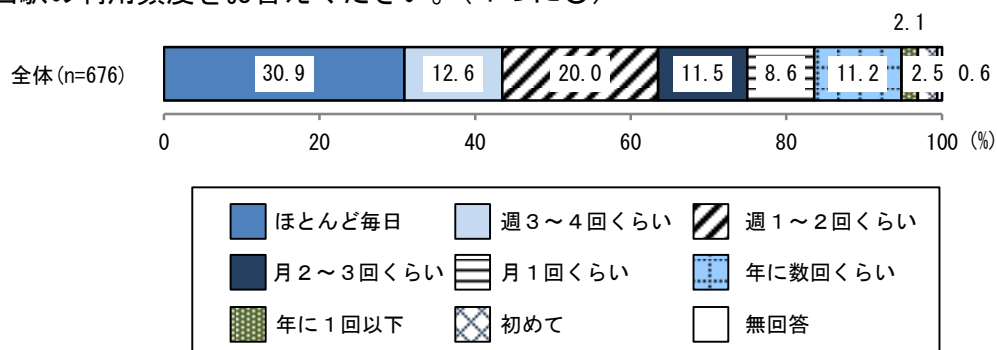
【図表 目的地の所在地（調査場所別）】

		(%)							
		中 区	東 区	南 区	西 区	安 佐 南 区 ・ 安 佐 北 区	安 芸 区	呉 市	東 広 島 市
全 体 (n=676)		13.5	3.0	20.4	3.4	1.5	10.5	4.0	1.0
調 査 場 所 別	海田市駅 (n=222)	12.6	1.8	12.6	2.3	1.4	18.5	5.4	0.5
	矢野駅 (n=212)	21.2	4.7	23.1	2.8	2.8	10.8	3.8	0.5
	向洋駅 (n=242)	7.4	2.5	25.2	5.0	0.4	2.9	2.9	2.1
		府 中 町	海 田 町	坂 町	熊 野 町	そ の 他	県 外	無 回 答	
全 体 (n=676)		17.9	14.6	2.7	0.9	1.6	1.3	3.7	
調 査 場 所 別	海田市駅 (n=222)	5.9	32.4	0.5	0.0	0.9	0.5	5.0	
	矢野駅 (n=212)	6.6	9.0	8.0	2.8	1.9	1.4	0.5	
	向洋駅 (n=242)	38.8	3.3	0.0	0.0	2.1	2.1	5.4	

目的地の所在地について、調査場所別にみると、「中区」との回答は矢野駅で2割超、「南区」との回答は矢野駅、向洋駅で2割台半ば、「安芸区」との回答は海田市駅で約2割、「府中町」との回答は向洋駅で約4割、「海田町」との回答は海田市駅で3割超と高くなっている。

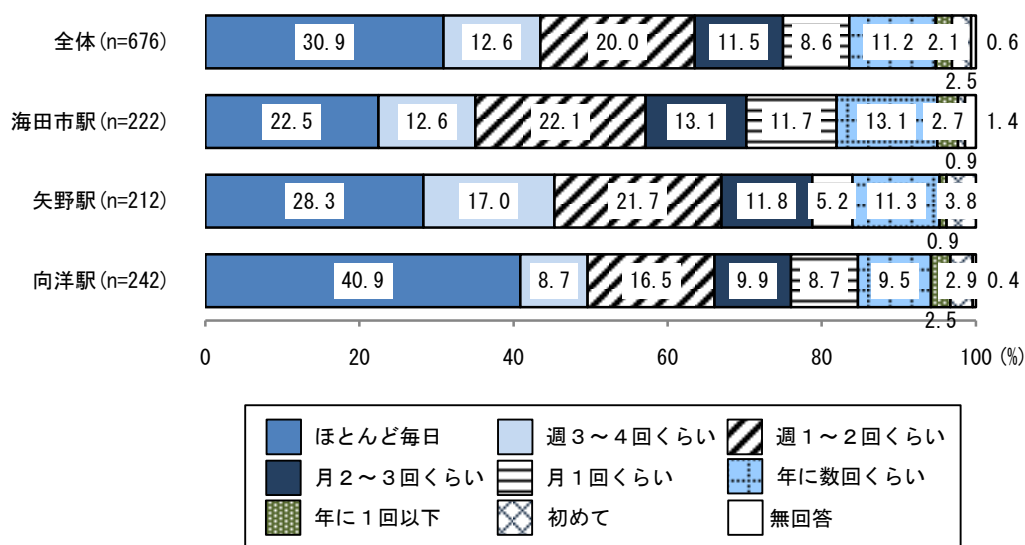
5. 駅の利用頻度について

問4 当駅の利用頻度をお答えください。(1つに○)



駅の利用頻度について、「ほとんど毎日」との回答が30.9%と最も高く、次いで「週1～2回くらい」(20.0%)、「週3～4回くらい」(12.6%)、「月2～3回くらい」(11.5%)、「年に数回くらい」(11.2%)などの順となっている。

【図表 駅の利用頻度（調査場所別）】



駅の利用頻度について、調査場所別にみると、向洋駅は「ほとんど毎日」との回答が約4割と高くなっている。

【図表 駅の利用頻度（居住地区別）】

(%)

		ほとんど毎日	週1～2回くらい	週3～4回くらい	月2～3回くらい	年に数回くらい	月1回くらい	初めて	年に1回以下	無回答
	全 体 (n=676)	30.9	20.0	12.6	11.5	11.2	8.6	2.5	2.1	0.6
居住地区別	中区 (n=14)	7.1	14.3	0.0	21.4	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0
	南区 (n=45)	42.2	13.3	8.9	11.1	13.3	11.1	0.0	0.0	0.0
	安芸区 (n=232)	27.6	25.0	14.2	12.5	6.9	11.2	0.4	0.9	1.3
	府中町 (n=96)	36.5	21.9	13.5	12.5	6.3	4.2	1.0	3.1	1.0
	海田町 (n=74)	25.7	28.4	20.3	12.2	9.5	4.1	0.0	0.0	0.0
	坂町 (n=18)	22.2	22.2	27.8	5.6	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0
	呉市 (n=40)	40.0	12.5	2.5	12.5	20.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	その他 (n=157)	32.5	11.5	8.9	8.9	17.2	7.0	9.6	4.5	0.0

駅の利用頻度について、居住地区別にみると、「ほとんど毎日」との回答は南区、呉市で4割台と高くなっている。

【図表 駅の利用頻度（利用目的別）】

(%)

		ほとんど毎日	週1～2回くらい	週3～4回くらい	月2～3回くらい	年に数回くらい	月1回くらい	初めて	年に1回以下	無回答
	全 体 (n=676)	30.9	20.0	12.6	11.5	11.2	8.6	2.5	2.1	0.6
利用目的別	買い物 (n=154)	22.1	24.0	20.1	10.4	11.0	7.1	1.9	1.3	1.9
	飲食店 (n=57)	22.8	19.3	7.0	5.3	24.6	12.3	1.8	3.5	3.5
	通勤通学 (n=63)	82.5	1.6	7.9	1.6	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	通院 (n=62)	9.7	22.6	3.2	16.1	17.7	25.8	1.6	3.2	0.0

※利用目的は上位項目のみ掲載

駅の利用頻度について、利用目的別にみると、「ほとんど毎日」との回答は通勤通学で8割超と高くなっている。

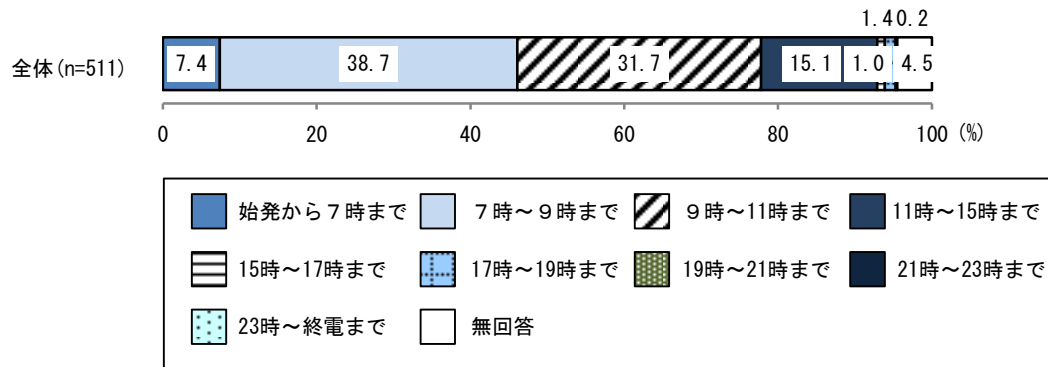
6. 駅の利用時間について

(問4で①～⑤を選択した方におうかがいします。)

問5 当駅の主な利用時間をお答えください。

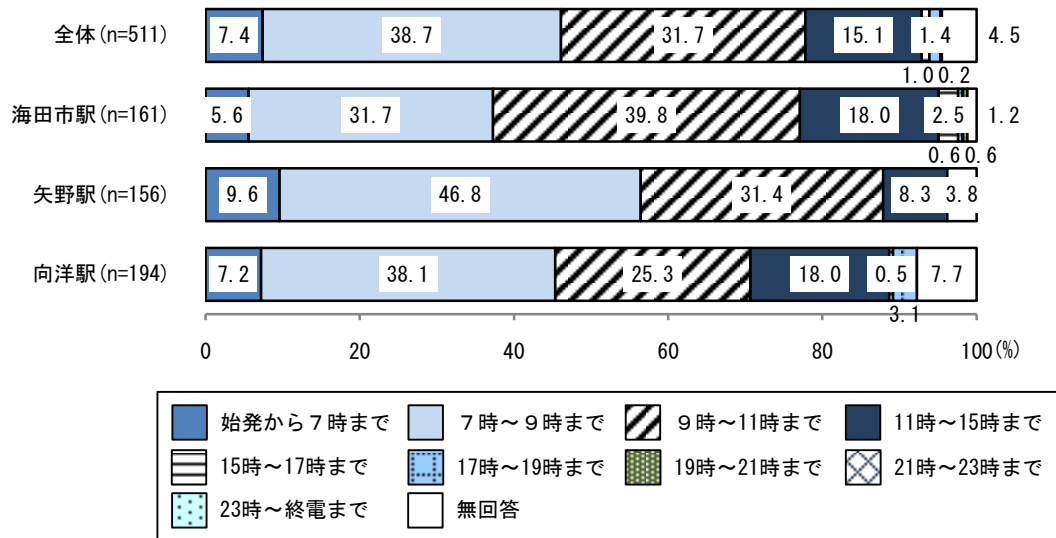
(平日、休日別に行き・帰りの時間をお答えください)

①平日・行きの主な利用時間



平日・行きの主な利用時間について、「7時～9時まで」との回答が38.7%と最も高く、次いで「9時～11時まで」(31.7%)、「11時～15時まで」(15.1%)、「始発から7時まで」(7.4%)などの順となっている。

【図表 平日・行きの主な利用時間（調査場所別）】



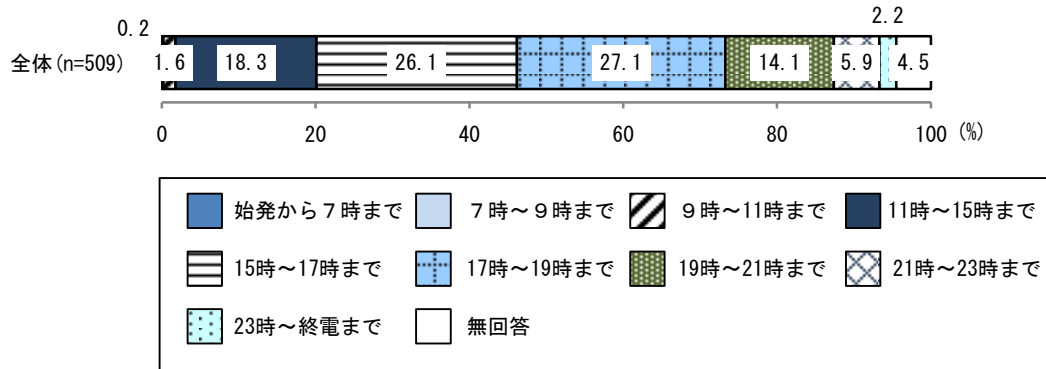
平日・行きの主な利用時間について、調査場所別にみると、矢野駅は「7～9時まで」との回答が4割台半ば、海田市駅は「9時～11時まで」との回答が約4割と高くなっており、矢野駅は「11時～15時まで」との回答が1割未満と低くなっている。

【図表 平日・行きの主な利用時間（職業別）】

		(%)									
		始 発 か ら 7 時 ま で	7 時 ～ 9 時 ま で	9 時 ～ 11 時 ま で	11 時 ～ 15 時 ま で	15 時 ～ 17 時 ま で	17 時 ～ 19 時 ま で	19 時 ～ 21 時 ま で	21 時 ～ 23 時 ま で	23 時 ～ 終 電 ま で	無 回 答
全 体 (n=511)		7.4	38.7	31.7	15.1	1.0	1.4	0.2	0.0	0.0	4.5
職 業 別	会 社 員 (n=149)	13.4	59.1	10.7	8.1	0.7	2.7	0.7	0.0	0.0	4.7
	公 務 員 ・ 団 体 職 員 (n=10)	20.0	60.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	自 営 業 (n=9)	0.0	11.1	22.2	33.3	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1
	専 業 主 婦 （ 主 夫 ） (n=104)	0.0	11.5	57.7	27.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト (n=81)	7.4	37.0	42.0	8.6	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	3.7
	学 生 (n=78)	10.3	61.5	14.1	5.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
	無 職 (n=58)	0.0	10.3	55.2	29.3	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	3.4
	そ の 他 (n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

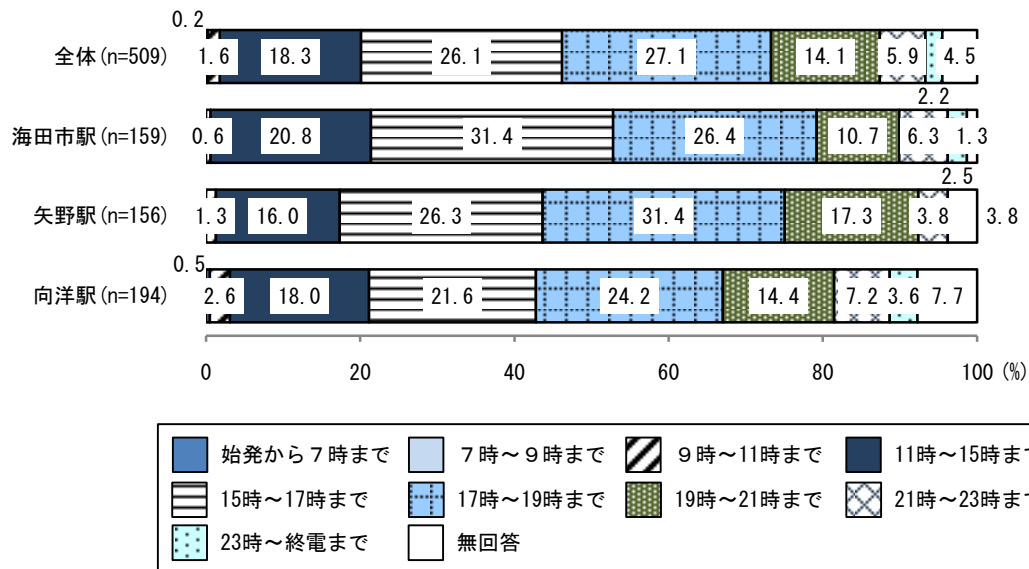
平日・行きの主な利用時間について、職業別にみると、「7時～9時まで」との回答は会社員、学生で6割前後と高く、「9時～11時まで」との回答は5割台半ば、「11時～15時まで」との回答は約3割と専業主婦（主夫）、無職で高くなっている。

②平日・帰りの主な利用時間



平日・帰りの主な利用時間について、「17時～19時まで」との回答が27.1%と最も高く、次いで「15時～17時まで」(26.1%)、「11時～15時まで」(18.3%)、「19時～21時まで」(14.1%)などの順となっている。

【図表 平日・帰りの主な利用時間（調査場所別）】



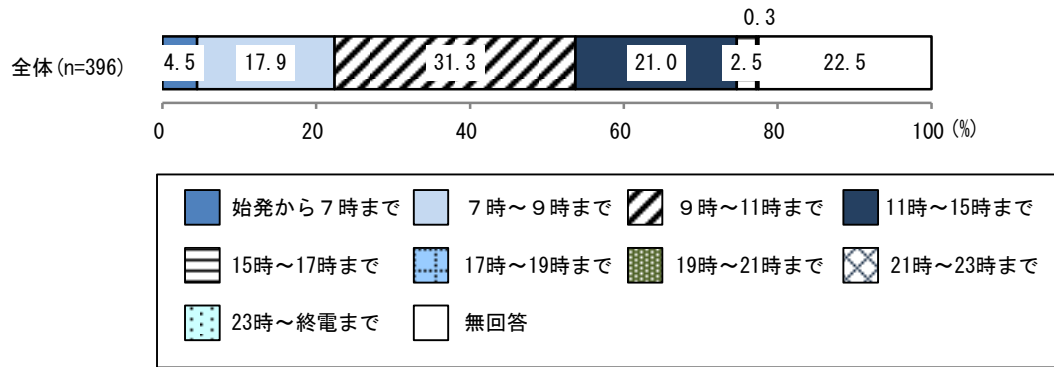
平日・帰りの主な利用時間について、調査場所別にみると、海田市駅は「15時～17時まで」との回答が3割超と高くなっている。

【図表 平日・帰りの主な利用時間（職業別）】

		(%)									
		始 発 か ら 7 時 ま で	7 時 ～ 9 時 ま で	9 時 ～ 11 時 ま で	11 時 ～ 15 時 ま で	15 時 ～ 17 時 ま で	17 時 ～ 19 時 ま で	19 時 ～ 21 時 ま で	21 時 ～ 23 時 ま で	23 時 ～ 終 電 ま で	無 回 答
全 体 (n=509)		0.2	0.0	1.6	18.3	26.1	27.1	14.1	5.9	2.2	4.5
職 業 別	会社員 (n=149)	0.7	0.0	0.0	6.0	11.4	29.5	31.5	13.4	2.7	4.7
	公務員・団体職員 (n=10)	0.0	0.0	0.0	10.0	20.0	50.0	10.0	0.0	0.0	10.0
	自営業 (n=9)	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	33.3	0.0	0.0	22.2	11.1
	専業主婦（主夫） (n=104)	0.0	0.0	1.9	28.8	46.2	20.2	1.9	0.0	0.0	1.0
	パート・アルバイト (n=81)	0.0	0.0	1.2	29.6	37.0	11.1	9.9	4.9	2.5	3.7
	学生 (n=77)	0.0	0.0	0.0	6.5	13.0	48.1	16.9	5.2	2.6	7.8
	無職 (n=57)	0.0	0.0	7.0	31.6	33.3	21.1	1.8	0.0	1.8	3.5
	その他 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

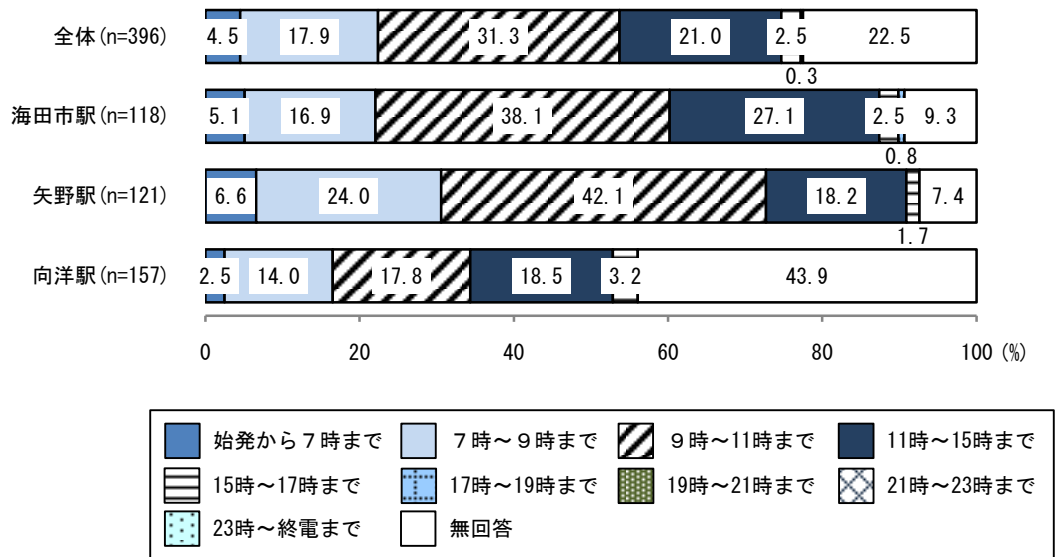
平日・帰りの主な利用時間について、職業別にみると、「11 時～15 時まで」との回答は専業主婦（主夫）、パート・アルバイトで約 3 割、「15 時～17 時まで」との回答は専業主婦（主夫）で 4 割台半ば、「17 時～19 時」との回答は学生で約 5 割、「19 時～21 時まで」との回答は会社員で 3 割超と高くなっている。

③休日・行きの主な利用時間



休日・行きの主な利用時間について、「9時～11時まで」との回答が31.3%と最も高く、次いで「11時～15時まで」(21.0%)、「7時～9時まで」(17.9%)、「始発～7時まで」(4.5%)などの順となっている。

【図表 休日・行きの主な利用時間（調査場所別）】



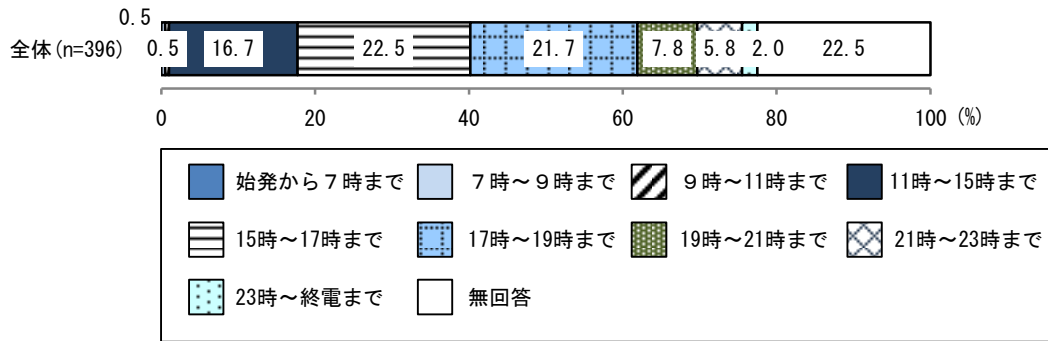
休日・行きの主な利用時間について、調査場所別にみると、矢野駅は「7時～9時まで」との回答が2割台半ば、海田市駅は「11時～15時まで」との回答が約3割と高く、向洋駅は「9時～11時まで」との回答が約2割と低くなっている。

【図表 休日・行きの主な利用時間（職業別）】

		(%)									
		始 発 か ら 7 時 ま で	7 時 ～ 9 時 ま で	9 時 ～ 1 1 時 ま で	1 1 時 ～ 1 5 時 ま で	1 5 時 ～ 1 7 時 ま で	1 7 時 ～ 1 9 時 ま で	1 9 時 ～ 2 1 時 ま で	2 1 時 ～ 2 3 時 ま で	2 3 時 ～ 終 電 ま で	無 回 答
全 体 (n=396)		4.5	17.9	31.3	21.0	2.5	0.3	0.0	0.0	0.0	22.5
職 業 別	会社員 (n=118)	5.9	20.3	22.9	24.6	5.9	0.8	0.0	0.0	0.0	19.5
	公務員・団体職員 (n=10)	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	自営業 (n=6)	0.0	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
	専業主婦（主夫） (n=64)	1.6	7.8	40.6	32.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	15.6
	パート・アルバイト (n=63)	4.8	15.9	31.7	15.9	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	30.2
	学生 (n=65)	10.8	33.8	33.8	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8
	無職 (n=52)	0.0	7.7	34.6	21.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.5
	その他 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

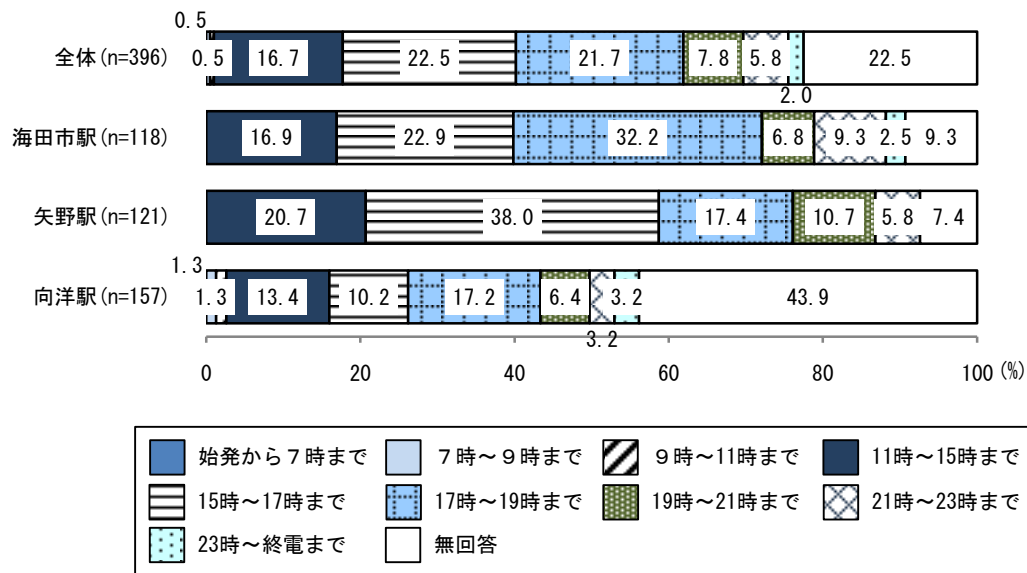
休日・行きの主な利用時間について、職業別にみると、「始発～7時まで」との回答は約1割、「7時～9時まで」との回答は3割台半ばと学生で高く、「9時～11時まで」との回答は約4割、「11時～15時」との回答は3割超と専業主婦（主夫）で高くなっている。

④休日・帰りの主な利用時間



休日・帰りの主な利用時間について、「15時～17時まで」との回答が22.5%と最も高く、次いで「17時～19時まで」(21.7%)、「11時～15時まで」(16.7%)、「19時～21時まで」(7.8%)などの順となっている。

【図表 休日・帰りの主な利用時間（調査場所別）】



休日・帰りの主な利用時間について、調査場所別にみると、矢野駅は「15時～17時まで」との回答が約4割、海田市駅は「17時～19時まで」との回答が3割超と高くなっている。

【図表 休日・帰りの主な利用時間（職業別）】

		(%)									
		始 発 か ら 7 時 ま で	7 時 ～ 9 時 ま で	9 時 ～ 11 時 ま で	11 時 ～ 15 時 ま で	15 時 ～ 17 時 ま で	17 時 ～ 19 時 ま で	19 時 ～ 21 時 ま で	21 時 ～ 23 時 ま で	23 時 ～ 終 電 ま で	無 回 答
全 体 (n=396)		0.0	0.5	0.5	16.7	22.5	21.7	7.8	5.8	2.0	22.5
職 業 別	会社員 (n=118)	0.0	0.8	0.8	9.3	19.5	27.1	12.7	5.9	3.4	20.3
	公務員・団体職員 (n=11)	0.0	0.0	0.0	27.3	9.1	18.2	0.0	27.3	0.0	18.2
	自営業 (n=6)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7
	専業主婦（主夫） (n=63)	0.0	0.0	0.0	15.9	41.3	23.8	1.6	1.6	0.0	15.9
	パート・アルバイト (n=63)	0.0	0.0	0.0	19.0	17.5	15.9	7.9	6.3	4.8	28.6
	学生 (n=65)	0.0	1.5	0.0	26.2	15.4	26.2	12.3	6.2	1.5	10.8
	無職 (n=52)	0.0	0.0	1.9	17.3	28.8	13.5	0.0	1.9	0.0	36.5
	その他 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

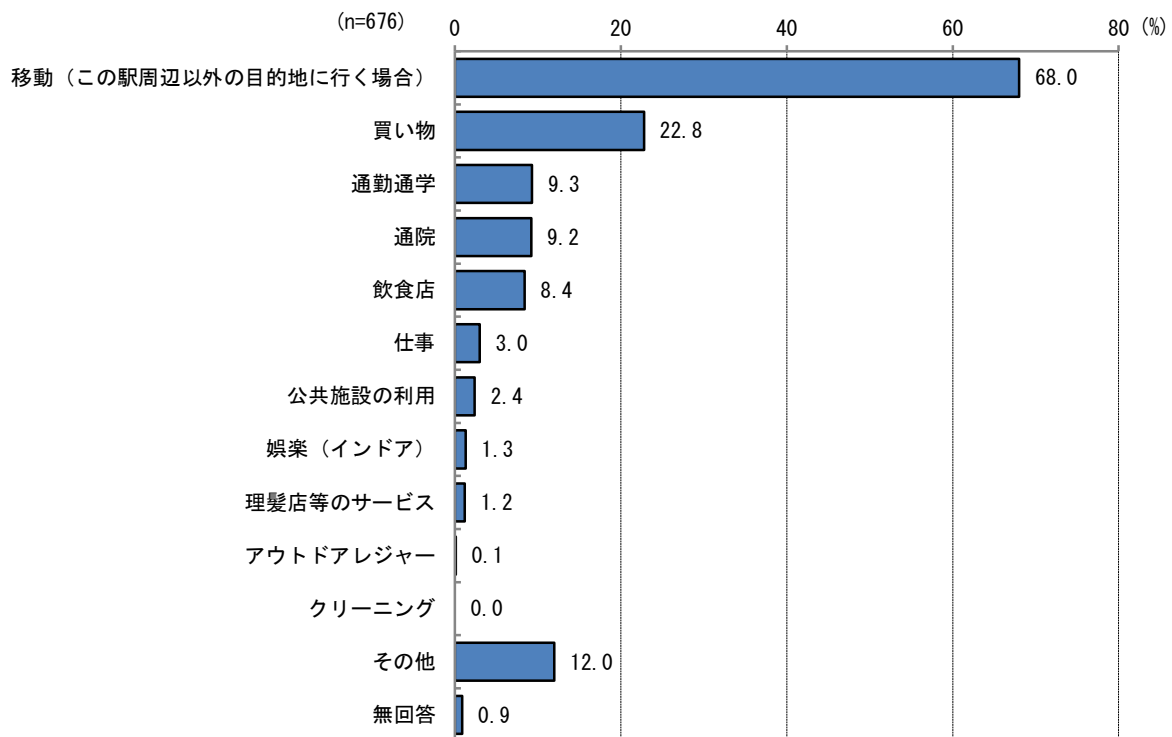
休日・帰りの主な利用時間について、職業別にみると、「11 時～15 時まで」との回答は学生で 2 割台半ば、「15 時～17 時まで」との回答は専業主婦（主夫）で 4 割超、「17 時～19 時まで」との回答は 2 割台半ば、「19 時～21 時」との回答は 1 割超と会社員、学生で高くなっている。

7. 本日の行動内容について

問6 この駅（海田市駅・矢野駅・向洋駅）周辺での本日の行動内容をお答えください。（予定も含めてお書きください）

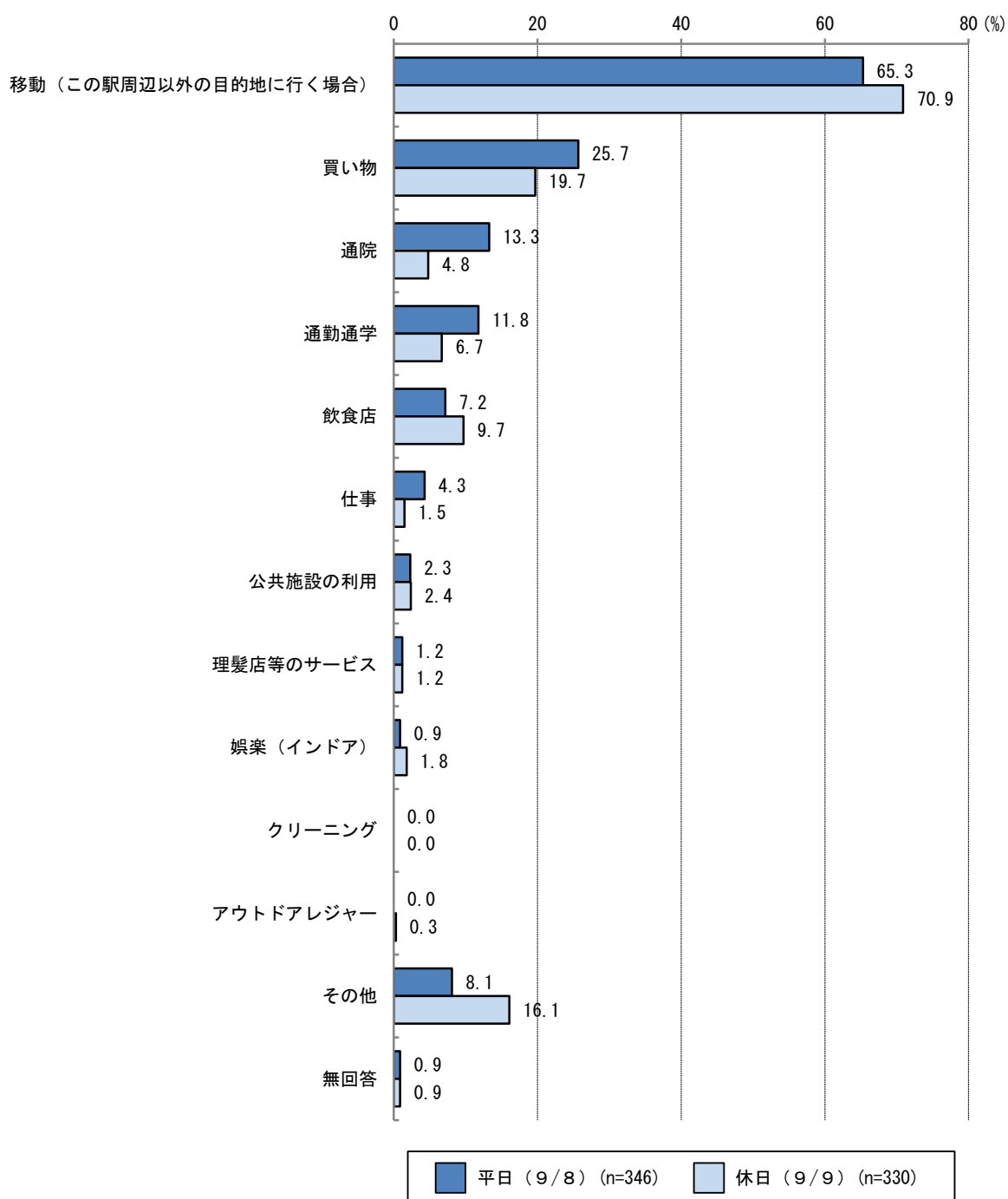
①～⑫のうち、利用目的すべてに○をつけ、それぞれ滞在時間と消費金額をお答えください。

①利用目的



利用目的について、「移動（この駅周辺以外の目的地に行く）」との回答が 68.0%と最も高く、次いで「買い物」（22.8%）、「通勤通学」（9.3%）、「通院」（9.2%）などの順となっている。

【図表 利用目的（平日・休日別）】



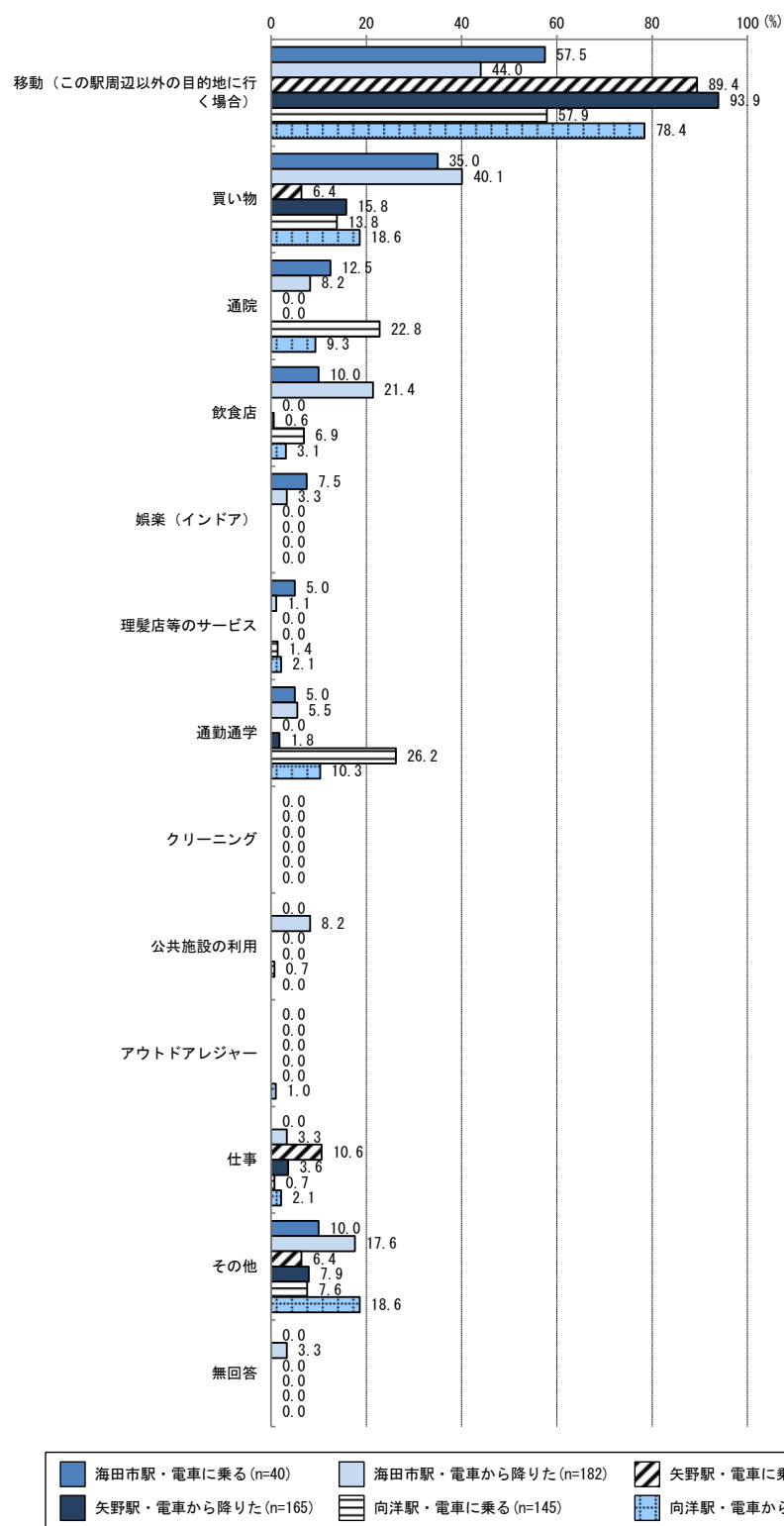
利用目的について、平日・休日別にみると、「買い物」との回答は平日（25.7%）が休日（19.7%）を6.0ポイント、「通院」との回答は平日（13.3%）が休日（4.8%）を8.5ポイント、「通勤通学」との回答は平日（11.8%）が休日（6.7%）を5.1ポイント上回っている。また、「移動（この駅周辺以外の目的地に行く）」との回答は休日（70.9%）が平日（65.3%）を5.6ポイント上回っている。

【図表 利用目的（調査場所別）】

		(%)						
		移動（この駅周辺以外 の目的地に行く場合）	買い物	通勤 通学	通院	飲食店	仕事	公共施設の利用
全 体 (n=676)		68.0	22.8	9.3	9.2	8.4	3.0	2.4
調査場所別	海田市駅 (n=222)	46.4	39.2	5.4	9.0	19.4	2.7	6.8
	矢野駅 (n=212)	92.9	13.7	1.4	0.0	0.5	5.2	0.0
	向洋駅 (n=242)	66.1	15.7	19.8	17.4	5.4	1.2	0.4
			娯楽（インドア）	理髪店等のサービス	アウトドアレジャー	クリーニング	その他	無回答
全 体 (n=676)		1.3	1.2	0.1	0.0	12.0	0.9	
調査場所別	海田市駅 (n=222)	4.1	1.8	0.0	0.0	16.2	2.7	
	矢野駅 (n=212)	0.0	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	
	向洋駅 (n=242)	0.0	1.7	0.4	0.0	12.0	0.0	

利用目的について、調査場所別にみると、矢野駅は「移動（この駅周辺以外の目的地に行く）」との回答が9割超、海田市駅は「買い物」との回答が約4割、向洋駅は「通勤通学」、「通院」との回答が約2割、海田市駅は「飲食店」との回答が約2割と高くなっている。

【図表 利用目的（電車の乗降状況別）】



利用目的について、電車の乗降状況別にみると、矢野駅の乗車・降車時は「移動（この駅周辺以外の目的地に行く）」との回答が9割前後、海田市駅の乗車・降車時は「買い物」との回答が4割前後、向洋駅の乗車時は「通院」との回答が2割超、海田市駅の降車時は「飲食店」との回答が2割超、向洋駅の乗車時は「通勤通学」との回答が2割台半ばと高くなっている。

【図表 利用目的（年齢別）】

		(%)						
		の移動 目的（この 駅周辺以 外）	買 い 物	通 勤 通 学	通 院	飲 食 店	仕 事	公 共 施 設 の 利 用
全 体 (n=676)		68.0	22.8	9.3	9.2	8.4	3.0	2.4
年 齢 別	20歳未満 (n=87)	71.3	12.6	3.4	2.3	4.6	0.0	0.0
	20歳代 (n=97)	70.1	22.7	10.3	5.2	6.2	2.1	1.0
	30歳代 (n=71)	63.4	26.8	22.5	4.2	9.9	4.2	1.4
	40歳代 (n=101)	67.3	22.8	16.8	5.0	12.9	5.0	2.0
	50歳代 (n=90)	65.6	22.2	11.1	12.2	12.2	6.7	2.2
	60歳代 (n=131)	63.4	28.2	5.3	14.5	6.1	3.1	6.1
	70歳以上 (n=99)	75.8	22.2	0.0	17.2	8.1	0.0	2.0

※上位項目のみ掲載

利用目的について、年齢別にみると、「移動（この駅周辺以外の目的地に行く）」との回答は70歳以上で7割台半ば、「通勤通学」との回答は30歳代で2割超と高く、「買い物」との回答は20歳代以下で1割超と低くなっている。

【図表 利用目的（性・年齢別）】

		(%)						
		の移動 目的（この 駅周辺以 外）	買 い 物	通 勤 通 学	通 院	飲 食 店	仕 事	公 共 施 設 の 利 用
全 体 (n=676)		68.0	22.8	9.3	9.2	8.4	3.0	2.4
性 ・ 年 齢 別	男性20歳未満 (n=35)	71.4	17.1	2.9	0.0	8.6	0.0	0.0
	男性20歳代 (n=41)	63.4	19.5	12.2	4.9	4.9	2.4	0.0
	男性30歳代 (n=29)	58.6	13.8	24.1	0.0	17.2	10.3	0.0
	男性40歳代 (n=23)	56.5	17.4	26.1	0.0	17.4	8.7	0.0
	男性50歳代 (n=33)	48.5	18.2	18.2	9.1	18.2	18.2	3.0
	男性60歳代 (n=40)	57.5	27.5	12.5	7.5	12.5	7.5	7.5
	男性70歳以上 (n=40)	67.5	15.0	0.0	17.5	17.5	0.0	5.0
	女性20歳未満 (n=52)	71.2	9.6	3.8	3.8	1.9	0.0	0.0
	女性20歳代 (n=56)	75.0	25.0	8.9	5.4	7.1	1.8	1.8
	女性30歳代 (n=42)	66.7	35.7	21.4	7.1	4.8	0.0	2.4
	女性40歳代 (n=78)	70.5	24.4	14.1	6.4	11.5	3.8	2.6
	女性50歳代 (n=57)	75.4	24.6	7.0	14.0	8.8	0.0	1.8
	女性60歳代 (n=91)	65.9	28.6	2.2	17.6	3.3	1.1	5.5
	女性70歳以上 (n=59)	81.4	27.1	0.0	16.9	1.7	0.0	0.0

※上位項目のみ掲載

利用目的について、性・年齢別にみると、「買い物」との回答は女性30歳代、女性60歳以上で3割前後、「通勤通学」との回答は男性30歳代から男性50歳代、女性30歳代で2割前後、通院との回答は男性70歳以上、女性60歳以上で約2割、「飲食店」との回答は男性60歳代を除く男性30歳代以上で約2割と高くなっている。

【図表 利用目的（職業別）】

		(%)						
		移動（この駅周辺以外） の目的地に行く場合	通勤 通学	買 い 物	飲 食 店	仕 事	通 院	公 共 施 設 の 利 用
全 体 (n=676)		68.0	9.3	22.8	8.4	3.0	9.2	2.4
職 業 別	会社員・公務員・団体職員 (n=217)	61.8	21.7	18.4	12.4	7.4	5.5	1.4
	自営業 (n=9)	66.7	0.0	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0
	専業主婦（主夫） (n=135)	74.8	0.0	29.6	4.4	0.7	12.6	3.7
	パート・アルバイト (n=97)	68.0	9.3	34.0	9.3	3.1	9.3	3.1
	学生 (n=105)	74.3	3.8	14.3	4.8	0.0	1.9	0.0
	無職 (n=84)	69.0	1.2	17.9	7.1	0.0	23.8	2.4
	その他 (n=29)	58.6	6.9	34.5	10.3	0.0	3.4	10.3

※上位項目のみ掲載

利用目的について、職業別にみると、「移動（この駅周辺以外の目的地に行く）」との回答は専業主婦（主夫）、学生で7割台半ば、「買い物」との回答は専業主婦（主夫）、パート・アルバイトで3割前後、「通勤通学」との回答は会社員・公務員・団体職員との回答で2割超、「通院」との回答は無職で2割台半ばと高くなっている。

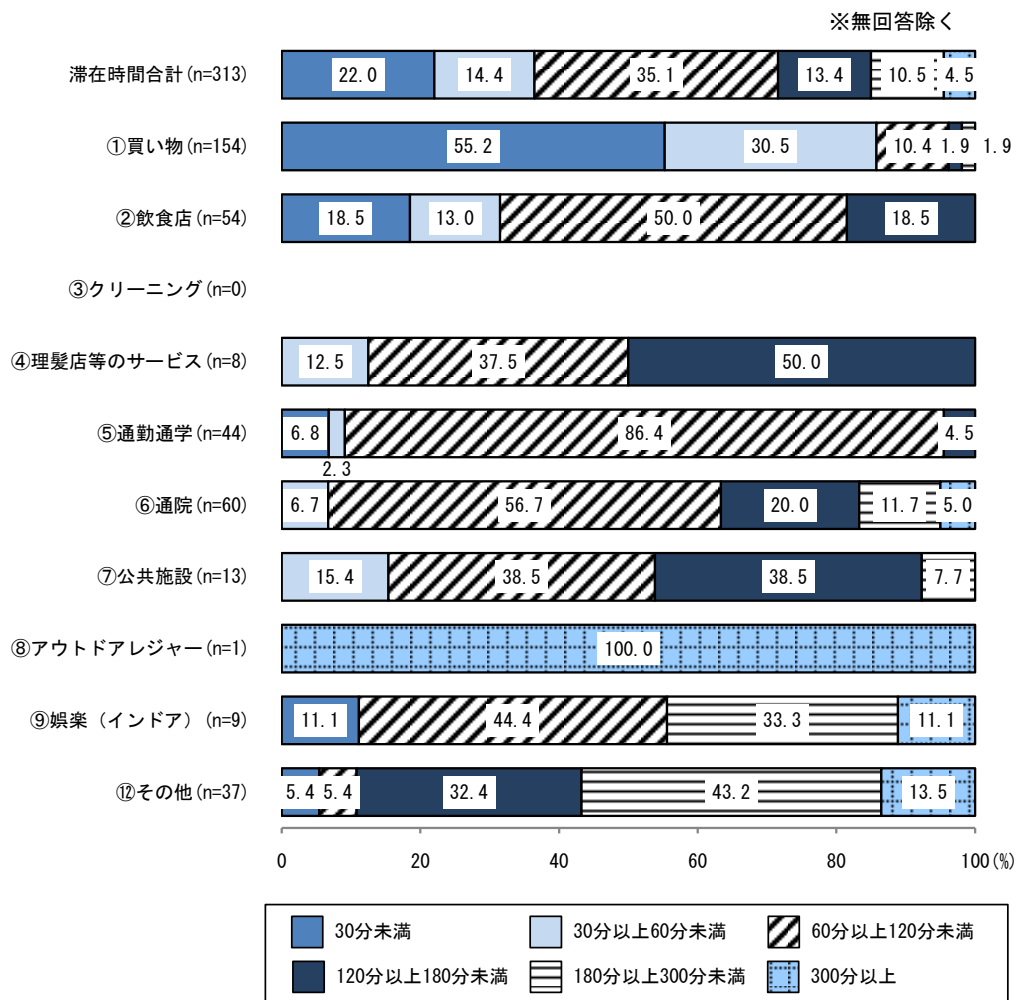
【図表 利用目的（居住地区別）】

		(%)						
		移動（この駅周辺以外） の目的 地に行く場合	買い物	通勤 通学	通院	飲食店	仕事	公共施設の利用
全 体 (n=676)		68.0	22.8	9.3	9.2	8.4	3.0	2.4
居住地区別	中区 (n=14)	42.9	21.4	14.3	7.1	28.6	0.0	14.3
	南区 (n=45)	80.0	11.1	13.3	6.7	6.7	2.2	2.2
	安芸区 (n=232)	72.4	28.0	6.0	10.8	7.3	1.7	4.3
	府中町 (n=96)	87.5	18.8	3.1	2.1	8.3	0.0	1.0
	海田町 (n=74)	91.9	31.1	4.1	9.5	2.7	0.0	0.0
	坂町 (n=18)	38.9	27.8	0.0	33.3	16.7	5.6	5.6
	呉市 (n=40)	47.5	27.5	2.5	12.5	15.0	0.0	2.5
	その他 (n=157)	45.9	15.3	21.7	8.3	8.9	8.9	0.0

※上位項目のみ掲載

利用目的について、居住地区別にみると、「移動（この駅周辺以外の目的地に行く）」との回答は南区、府中町、海田町で9割前後、「買い物」との回答は安芸区、海田町で3割前後、「通院」との回答は坂町で3割台半ば、「飲食店」との回答は中区で約3割と高くなっている。

② 滞在時間



【平均滞在時間（分）】

	全 体	海田市駅	矢野駅	向洋駅
①買い物	28	36	17	17
②飲食店	62	66	20	53
③クリーニング	0	0	0	0
④理髪店等のサービス	90	105	0	75
⑤通勤通学	60	20	0	62
⑥通院	109	72	0	127
⑦公共施設の利用	88	90	0	60
⑧アウトドアレジャー	300	0	0	300
⑨娯楽(インドア)	147	147	0	0
⑩その他	176	162	150	213
合計	85	93	26	91

滞在時間合計では、「1時間以上2時間未満」との回答が23.3%と最も高く、次いで「30分未満」(22.0%)、「30分以上1時間未満」(14.4%)、「3時間以上5時間未満」(13.7%)、「2時間以上3時間未満」(13.1%)などの順となっている。

買い物利用での滞在時間では、「30分未満」との回答が55.2%と最も高く、次いで「30分以上1時間未満」(30.5%)、「1時間以上2時間未満」(10.4%)、「2時間以上3時間未満」、「3時間以上

5 時間未満」(1.9%) の順となっている。

飲食店利用での滞在時間では、「1 時間以上 2 時間未満」との回答が 50.0%と最も高く、次いで「30 分未満」、「2 時間以上 3 時間未満」(18.5%)、「30 分以上 1 時間未満」(13.0%) の順となっている。

通勤通学での滞在時間では、「5 時間以上」との回答が 63.6%と最も高く、次いで「3 時間以上 5 時間未満」(22.7%)、「30 分未満」(6.8%)、「30 分以上 1 時間未満」、「1 時間以上 2 時間未満」、「2 時間以上 3 時間未満」(2.3%) の順となっている。

通院での滞在時間では、「1 時間以上 2 時間未満」との回答が 56.7%と最も高く、次いで「2 時間以上 3 時間未満」(20.0%)、「3 時間以上 5 時間未満」(11.7%)、「30 分以上 1 時間未満」(6.7%) などの順となっている。

平均滞在時間を駅別に見ると、合計滞在時間は 1 時間超となっており、「海田市駅」、「向洋駅」、「矢野駅」の順で滞在時間が長くなっている。

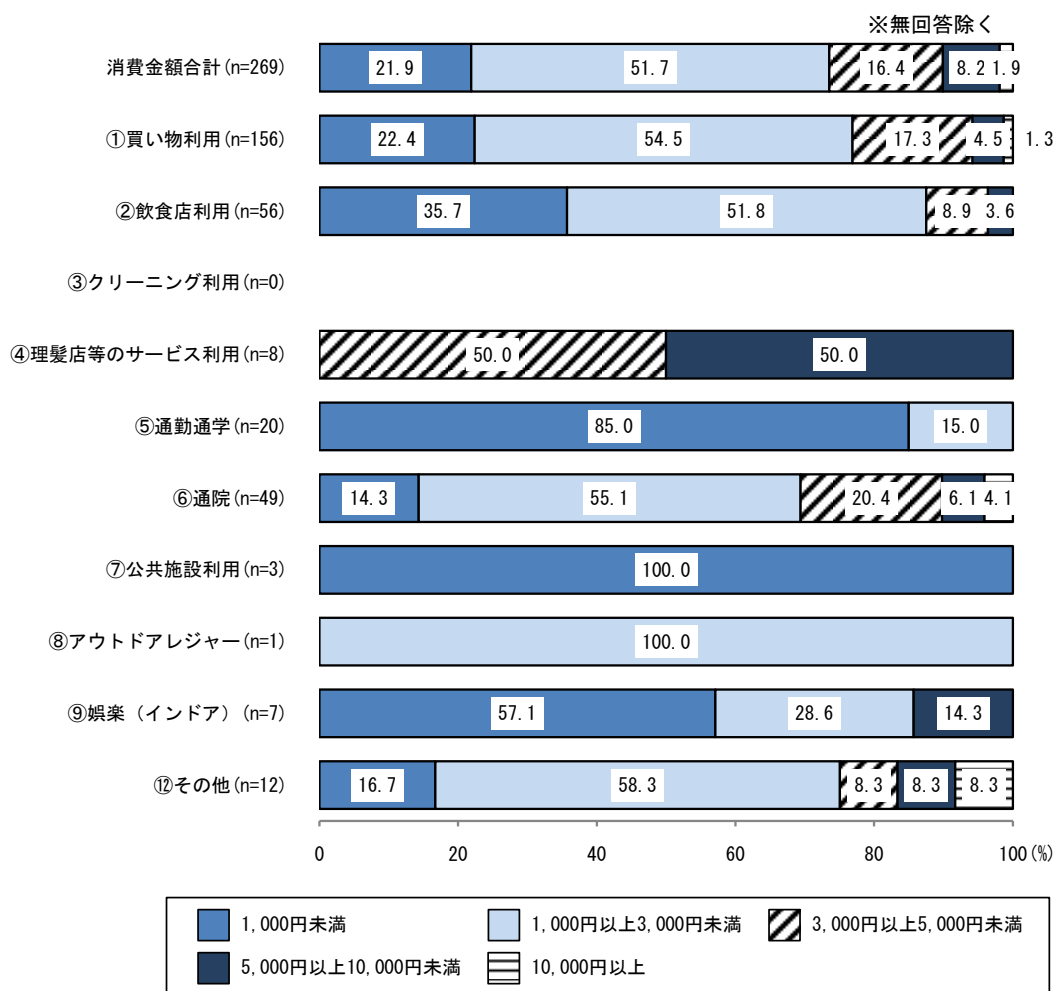
買い物での平均滞在時間は、「海田市駅」が 36 分であるのに対し、「矢野駅」、「向洋駅」は 17 分と短くなっている。

飲食店での平均滞在時間は、「海田市駅」、「向洋駅」で 1 時間前後であるのに対し、「矢野駅」は 20 分と短くなっている。

通勤通学での平均滞在時間は、「海田市駅」で 20 分、「向洋駅」で 62 分となっており、「矢野駅」では利用がみられない。

通院での平均滞在時間は、「海田市駅」72 分、「向洋駅」127 分となっており、「矢野駅」では利用がみられない。

③消費金額



【平均消費金額 (円)】

	全 体	海田市駅	矢野駅	向洋駅
①買い物	1,849	1,810	2,074	1,772
②飲食店	1,323	1,360	600	1,250
③クリーニング	0	0	0	0
④理髪店等のサービス	5,000	5,250	0	4,750
⑤通勤通学	453	360	0	458
⑥通院	2,623	3,069	0	2,408
⑦公共施設の利用	353	353	0	0
⑧アウトドアレジャー	1,000	0	0	1,000
⑨娯楽(インドア)	1,520	1,520	0	0
⑫その他	2,475	1,856	0	4,333
合計	2,166	2,278	2,025	2,053

消費金額合計では、「1,000円以上3,000円未満」との回答が51.7%と最も高く、次いで「1,000円未満」(21.9%)、「3,000円以上5,000円未満」(16.4%)、「5,000円以上10,000円未満」(8.2%)などの順となっている。

買い物利用での消費金額では、「1,000 円以上 3,000 円未満」との回答が 54.5%と最も高く、次いで「1,000 円未満」(22.4%)、「3,000 円以上 5,000 円未満」(17.3%)、「5,000 円以上 10,000 円未満」(4.5%)などの順となっている。

飲食店利用での消費金額では、「1,000 円以上 3,000 円未満」との回答が 51.8%と最も高く、次いで「1,000 円未満」(35.7%)、「3,000 円以上 5,000 円未満」(8.9%)などの順となっている。

通勤通学での消費金額では、「1,000 円未満」との回答は 85.0%と最も高く、次いで「1,000 円以上 3,000 円未満」(15.0%)となっている。

通院での消費金額では、「1,000 円以上 3,000 円未満」との回答が 55.1%と最も高く、次いで「3,000 円以上 5,000 円未満」(20.4%)、「1,000 円未満」(14.3%)、「5,000 円以上 10,000 円未満」(6.1%)などの順となっている。

平均消費金額について、項目別に比べると「通院」、「買い物」、「飲食店」の順に高くなっている。

買い物での平均消費金額は、すべての駅で 2000 円前後となっている。

飲食店での平均消費金額は、「矢野駅」で 600 円と低くなっている。

通勤通学での平均消費金額は「海田市駅」、「向洋駅」で 500 円未満となっており、「矢野駅」での利用はみられない。

通院での平均消費金額は、「海田市駅」で 3069 円と「向洋駅」に比べ高くなっている。また、「矢野駅」での利用はみられない。

第 3 章 調査結果のまとめ

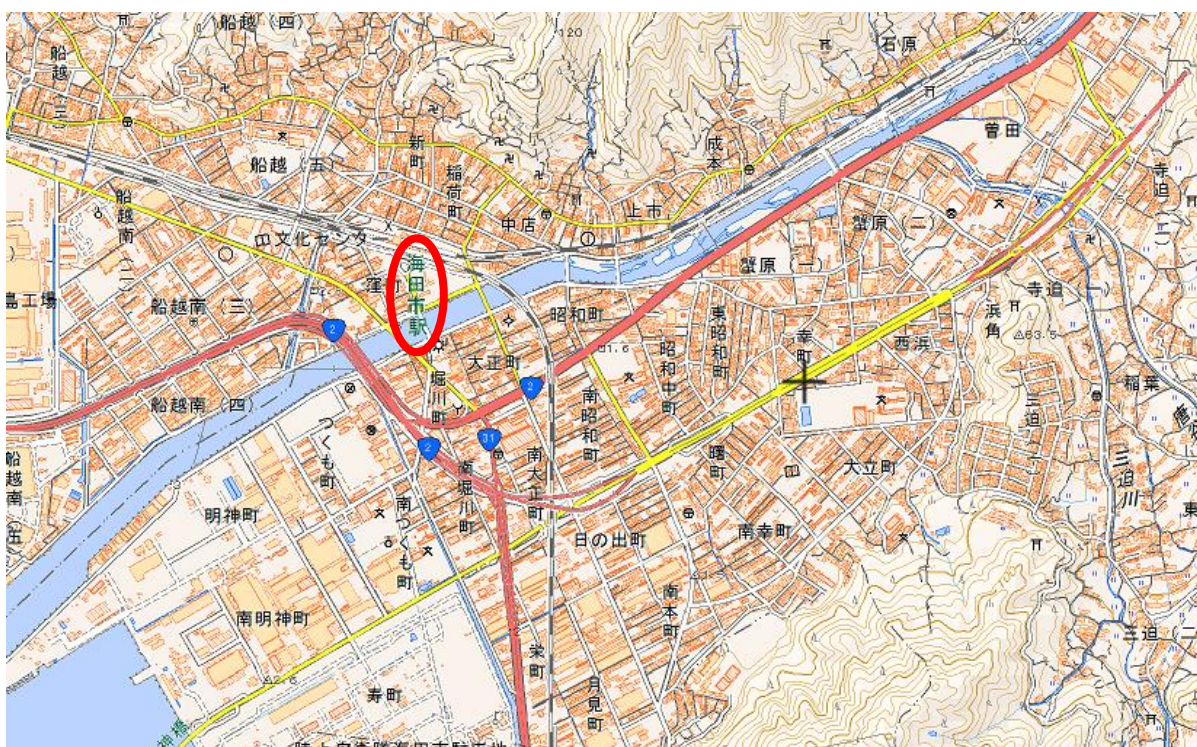
第3章 調査結果のまとめ

1 はじめに

本調査は海田市駅、矢野駅、向洋駅利用者の駅の利用状況や消費動向を把握し、小売事業者やサービス事業者の販路力強化のための基礎資料として活用することを目的に実施した。販路力強化のためには、駅ごとの利用者の特性を活かした営業戦略の策定が重要となる。以下、駅の利用状況や消費動向について、利用者の属性や各駅の特徴をもとにまとめることとする。

2 各駅の特性

(1) 海田市駅

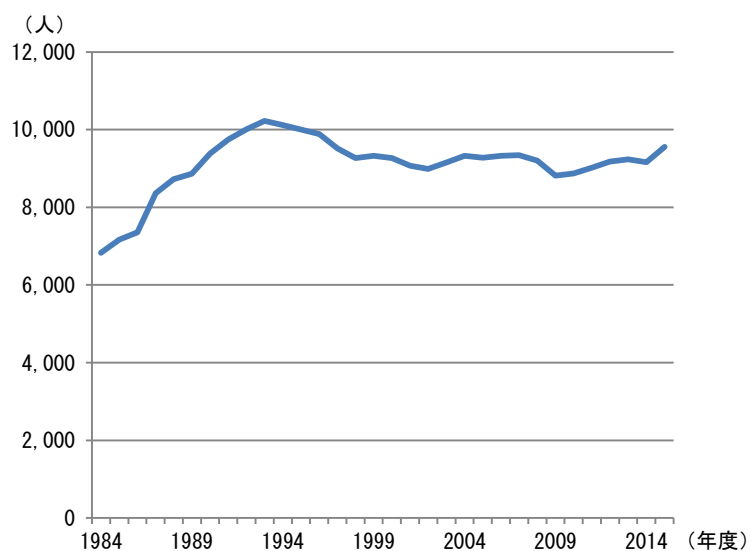


①駅について

- ・海田市駅は安芸郡海田町新町にある山陽本線と呉線の2路線を有する駅である。
- ・駅構内にセブンイレブンキヨスクが出店している。
- ・2007年に山陽本線の快速「通勤ライナー」の一部列車の停車駅となり、2010年には全列車の停車駅となる。
- ・2012年に呉線の快速「安芸路ライナー」全列車の停車駅となる。
- ・2016年に快速「シティライナー」の停車駅となる。
- ・海田市駅の1日平均乗車人員をみると、1984年より増加傾向にあったが、1993年を境に緩やかな減少傾向に転じている。しかし、2010年より少しずつであるが増加傾向にある。
- ・現在、海田市駅を中心とした地域が一体となって活性化するよう、駅南口地区については骨格的な都市基盤の整備と拠点的な都市機能の導入を図り、海田町の玄関口にふさわしい賑わいと風格のあるまちづくりを目指し、海田市駅南口土地区画整理事業が行われている。



【図表 海田市駅 1 日平均乗車人員】



資料：広島市統計書

②立地特性

- ・ 付近に安芸区図書館、安芸区役所、海田町役場などの公共施設が存在する。
- ・ 宿泊施設が 2 件（海田シティホテル、海田中央ホテル）存在する。
- ・ 商業施設はコープ、ウォンツ、マルショク、スーパードラッグひまわり、イオンがある。
イオン海田店は町内唯一の大型総合ショッピングセンターで海田市駅から徒歩約 10 分の場所にある。
- ・ 駅の北東側は住宅地になっており、南側は学校が多く点在している。
- ・ 海田町は病院が 2 施設、一般診療所が 31 施設、歯科診療所が 19 施設あり（海田町ホームページ H28 年 4 月現在）、住民 1 人あたりの医療施設数が県内上位で、医療機関が充実しているのが特徴である。



(2) 矢野駅

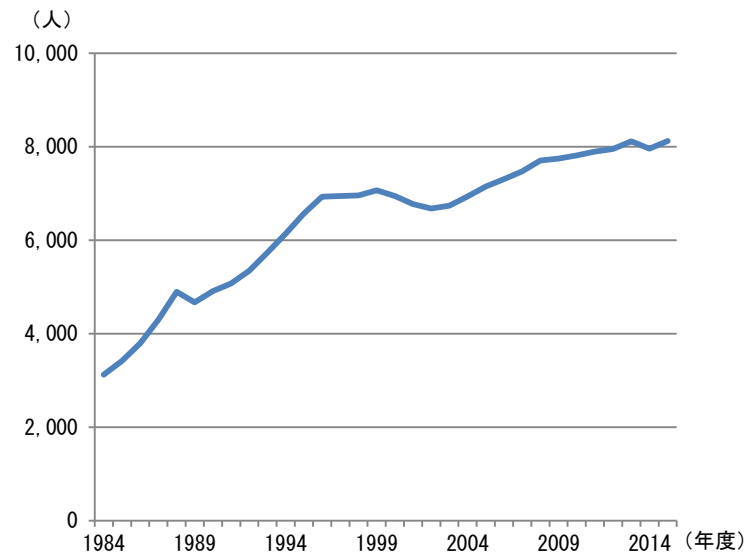


①駅について

- ・ 矢野駅は広島市安芸区矢野西一丁目にある JR 西日本呉線の駅である。
- ・ 駅の敷地内（南口）に駅ビルが建設され、スーパーや医院、学習塾などが出店している。
- ・ 2009 年にバス停が移設され、広電バスへの乗り換えがスムーズとなった。熊野営業所行き、夢が丘・押込行き、安芸矢野ニュータウン循環・済生会広島病院前行きが、2ヶ所の乗降所から発着するようになった。
- ・ 2010 年の広電バスダイヤ改正で、矢野旧道経由便の乗り入れが開始。広島都心や広島駅、向洋、海田、矢野旧道沿線へ向かうバス路線も発着している。
- ・ 矢野駅の 1 日平均乗車人員をみると、年々増加傾向にあり、現在は 8,000 人を超えている。



【図表 矢野駅 1 日平均乗車人員】



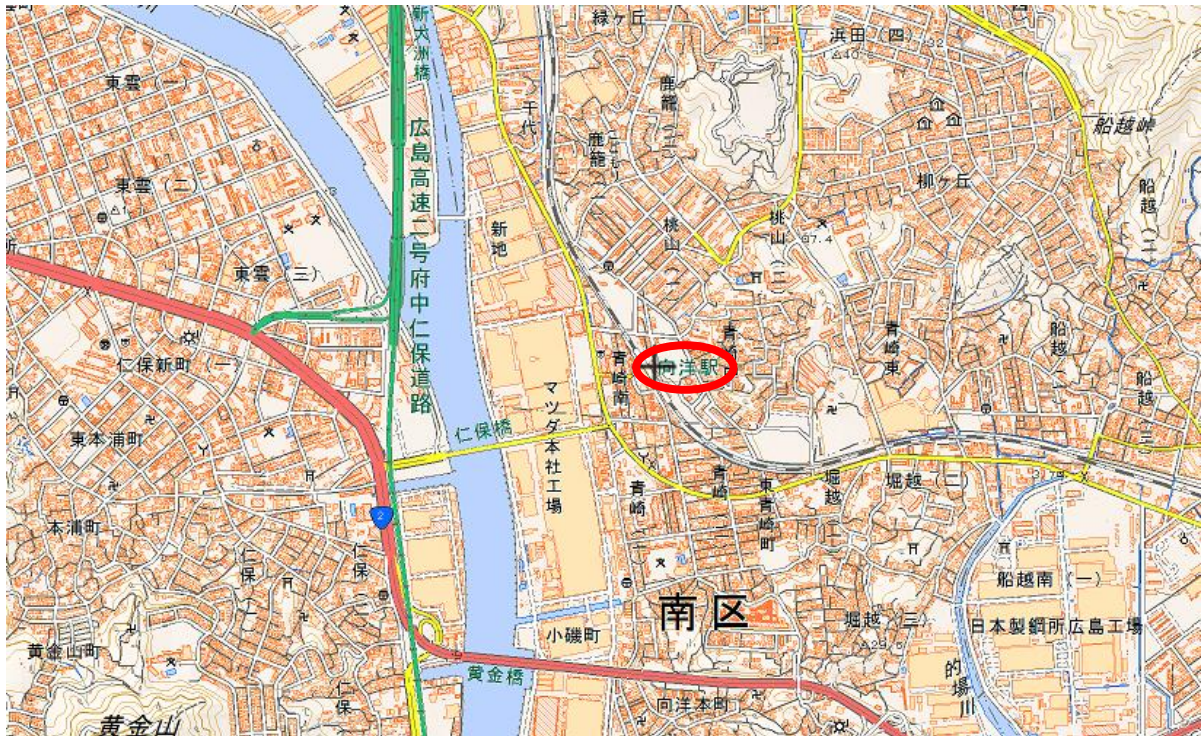
資料：広島市統計書

②立地特性

- ・ 商業施設はおかず工房、アーベル矢野店、フジグラン、万惣、ゲオがある。フジグラン安芸は大型の商業施設で矢野駅から徒歩約 25 分の距離にある。洋服店や食品・飲食店、雑貨店、サービス店などが利用できる。
- ・ 駅は住宅地に囲まれており、駅西側は工業地帯になっている。
- ・ 駅から徒歩約 20 分のところに済生会広島病院がある。



(3) 向洋駅

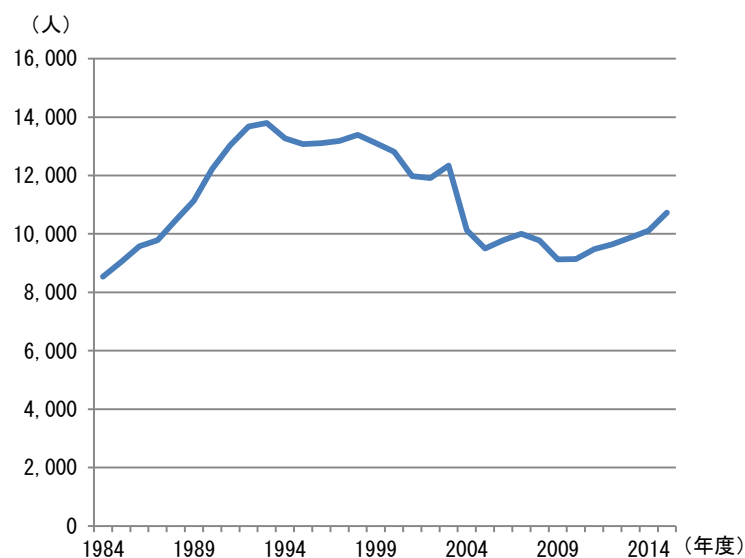


①駅について

- ・向洋駅は安芸郡府中町青崎南にある JR 西日本山陽本線の駅である。
- ・駅構内にセブン-イレブンハートインが outlets している。
- ・マツダ本社の最寄り駅であることから、平日の朝・タラッシュ時は通勤客で大変混雑する。
- ・向洋駅の1日平均乗車人員をみると、1993年までは増加傾向にあったが、以降は減少し、10,000人を下回った。しかし、2009年より再び増加傾向にある。
- ・現在、駅前広場およびそれに隣接する幹線道路等の公共施設整備と既成市街地の再編による宅地の利用増進を図り、広島都市圏東部の拠点、また町の南の玄関口にふさわしいゾーンとしての創出を図ることを目的に、向洋駅周辺土地地区画整理を行っている。



【図表 向洋駅 1 日平均乗車人員】



資料：広島市統計書

②立地特性

- ・商業施設は万惣、藤三、フレスタ、クスリ岩崎チェーン、ウォンツ、エディオンがある。
- ・府中町内には大型ショッピングセンターであるイオンモール広島府中があり、向洋駅から徒歩約 30 分かかる。広島駅からシャトルバスが運行しており、町外からも多くの買い物客が訪れる。中国新聞社の 2017 年広島市広域商圈調査では、買い物で最も利用する広島都市圏のエリアとして、「府中町周辺」を選ぶ人の割合（支持率）が、紙屋町、八丁堀などの広島都心エリアを抑えて初めて首位となった。
- ・駅から徒歩約 4 分のところに総合病院のマツダ病院があり、通院の利便性が高くなっている。
- ・駅は住宅地に囲まれており、駅西側はマツダ広島本社、工場がある。
- ・企業博物館であるマツダミュージアムがある。



3 回答者の状況

- ・性別は男性が3割台半ば、女性が6割台半ばとなっており、年齢は10歳代から70歳以上まで偏りなく回答が得られた。利用者の性年齢にみると、海田市駅は女性40～60歳代、矢野駅・向洋駅は女性40歳代、女性60～70歳代の利用が多くなっている。
- ・職業は会社員が約3割、専業主婦（主夫）が2割、学生、パート・アルバイトが1割台半ばとなっている。駅別にみると、海田市駅は専業主婦（主夫）、会社員、パート・アルバイト、矢野駅は会社員、学生、専業主婦（主夫）、向洋駅は会社員、無職、専業主婦（主夫）が多くなっている。
- ・居住地区は安芸区が3割台半ば、府中町が1割台半ば、海田町が約1割となっている。駅別にみると、海田市駅は安芸区、海田町、矢野駅は安芸区、向洋駅は府中町、安芸区、南区が多くなっている。

4 駅の利用状況

①移動手段

- ・居住地から調査駅までの移動手段は「JR」が約4割と最も高く、次いで「徒歩」、「バス」、「自転車」の順となっている。
- ・海田市駅、向洋駅では「JR」との回答が高くなっている。海田市駅は安芸区居住者、向洋駅は南区居住者の回答が多く、安芸区や南区からJRで移動している人が多いと考えられる。
- ・矢野駅ではバスの利用が目立っており、これは矢野駅が呉・熊野方面のバスの結節点となっているためと考えられる。

②目的地

- ・目的地の施設ではデパートやショッピングモールなどの商業施設が最も高く、次いで「会社」、「病院」などの順となっている。目的地を地域別にみると、安芸地域では「会社」「学校」「病院」「その他買い物施設」、その他の地域では「会社」「デパート」「病院」が多く挙げられている。

③駅の利用頻度

- ・すべての駅において、「ほとんど毎日」、「週1～2回くらい」が高く、週1回以上の利用が大半となっている。駅別にみると、向洋駅は他の駅に比べ、「ほとんど毎日」が約4割と高くなっている。これは通勤利用者が多いことが要因と考えられる。利用目的別でみると、買い物で利用した人は「ほとんど毎日」、「週1～2回くらい」、通院で利用した人は「月1回くらい」が高くなっている。居住地区別にみると、南区、呉市で「ほとんど毎日」が高くなっている。

④駅の主な利用時間

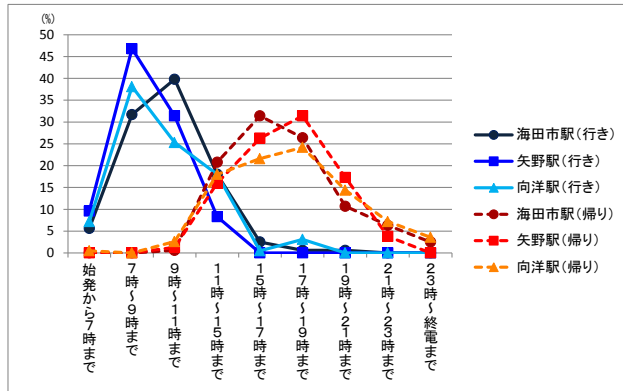
【平日】

- ・行きは「7時～9時まで」が最も高く、朝に利用されている。駅別にみると、矢野駅で「始発から7時まで」が上位に挙がっており、早朝の利用が多いことが特徴的である。これは、矢野駅が3駅の中で一番広島中心部から離れた場所に位置しているため、その他の駅より広島中心部への所要時間を要することが一因と考えられる。また、海田市駅の利用時間は、他の駅より

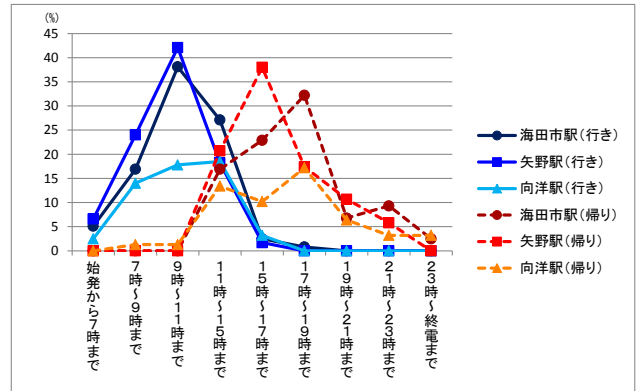
遅い「9時～11時まで」が1位となっており、専業主婦（主夫）やパート・アルバイトの方の利用が多いため、他の駅より遅い時間帯が多くなっていると推測される。

- ・帰りは「17時～19時まで」が最も高く、夕方に利用されている。駅別にみると、矢野駅で他の駅より遅い「19時～21時まで」が上位に挙がっており、これも行きと同様の理由で所要時間を要するためと考えられる。一方、海田市駅の利用時間は、他の駅より早い「15時～17時まで」が1位となっており、専業主婦（主夫）やパート・アルバイトの方が多く、買い物やパート・アルバイトの短時間勤務での利用が多いことが一因と推測される。

【図表 駅の主な利用時間（平日）】



【図表 駅の主な利用時間（休日）】



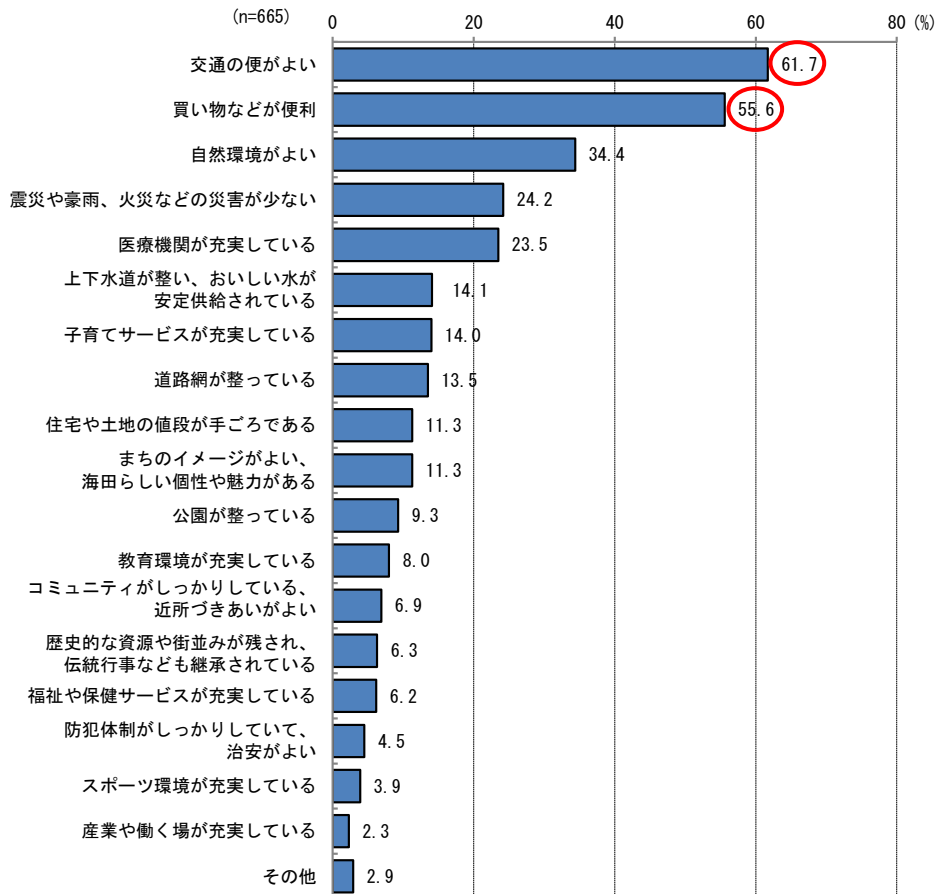
⑤利用目的

- ・「移動（駅周辺以外の目的地に行く）」が約7割と最も高く、次いで「買い物」、「通勤通学」、「通院」などの順となっている。
- ・平日・休日別にみると、「買い物」、「通院」、「通勤通学」との回答は平日が休日を上回っており、「移動（この駅周辺以外の目的地に行く）」との回答は休日が平日を上回っている。
- ・性・年代別にみると、「買い物」は女性が年代を問わず利用者が高いのに対し、男性は60歳代が約3割と高くなっている。「飲食店」は男性30歳代以上、「通院」は男女ともに50～70歳代以上で高い。

【買い物】

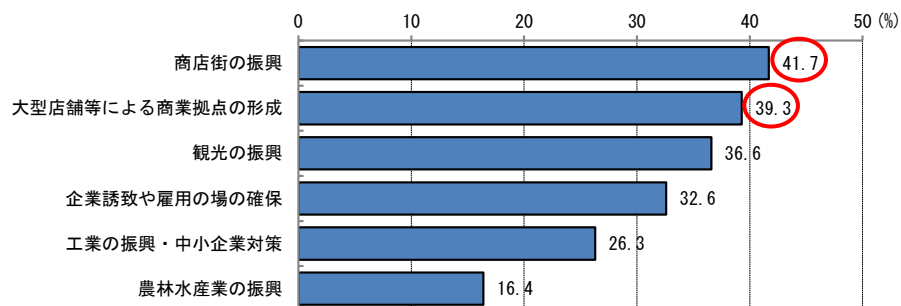
- ・買い物利用を居住地区別にみると、海田町（31.1%）、安芸区（28.0%）、府中町（18.8%）の他に、坂町（27.8%）、呉市（27.5%）も約3割となっており、近隣市町の利用もみられる。
- ・「買い物」目的は海田町で約4割と最も高く、次いで向洋駅、矢野駅の順となっている。海田市駅、矢野駅は利用目的の中で「買い物」が第2位となっているが、向洋駅は第4位となっている。
- ・海田町の将来人口に関するアンケート調査では、海田町の住みやすい点や魅力、強みとして「交通の便がよい」、「買物が便利」との意見が挙げられていることから、海田町の買い物の利便性が高いことがわかる。
- ・海田町まちづくりアンケート調査では海田町の取組環境に関する不満率として産業・雇用の分野では「商店街の振興」（41.7%）が最も高く、商店街の活性化を望む声が多くみられる。その他では「大型店舗等による商業拠点の形成」（39.3%）も上位に挙げられている。

【図表 海田町の住みやすい点や魅力、強み】



資料：平成 27 年 海田町の将来人口に関するアンケート調査

【図表 海田町の取組環境に関する不満率（産業・雇用分野）】

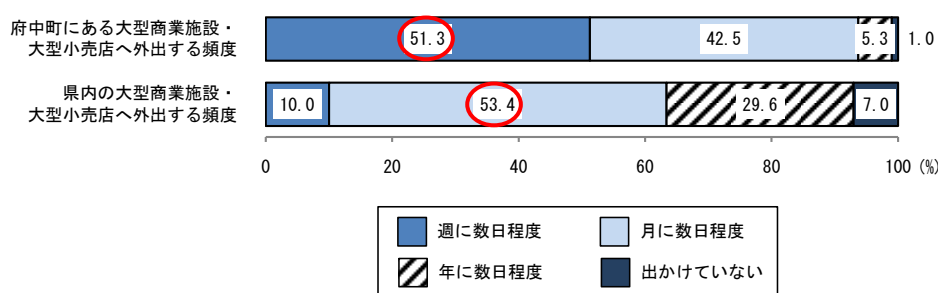


資料：平成 21 年 海田町まちづくりアンケート調査

- ・今回の調査では、向洋駅の買い物利用は1割台半ばであったが、府中町のアンケート調査では府中町にある大型商業施設、大型小売店へ外出する頻度は半数以上の人が「週に数日程

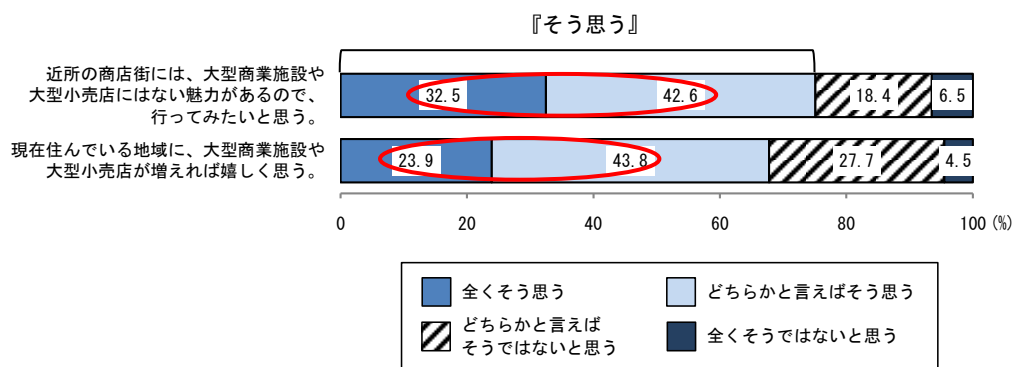
度」となっており、頻繁に府中町で買い物をしている。この結果から駅周辺での買い物は少ないが、町内の大型商業施設、大型小売店で買い物をしている人が多いことがわかる。また、県内の大型商業施設、大型小売店へ外出する頻度は半数以上の人が「月に数日程度」と府中町以外の大型商業施設や大型小売店への流出も見られる。一方、地域に関する価値観として、「近所の商店街には、大型商業施設や大型小売店にはない魅力があるので、行ってみたいと思う。」との回答が75.1%と高く、「現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う。」(67.7%)との回答を上回っており、商店街などの個人商店のニーズもある。

【図表 大型商業施設、大型小売店への外出頻度】



資料：平成26年府中町20～30代の住民1,500人を対象としたアンケート調査

【図表 地域に関する価値観】



資料：平成26年府中町20～30代の住民1,500人を対象としたアンケート調査

【飲食店】

- ・利用目的の「飲食店」が上位に挙がっているのは、海田市駅のみとなっており、これは海田市駅の飲食店の数が他の駅に比べ多いのが要因と考えられる。「食ベログ」や「ぐるなび」で駅ごとの登録飲食店数を検索すると、「食ベログ」では海田市駅が83店、矢野駅が42店、向洋駅が76店、「ぐるなび」では海田市駅が75店、矢野駅が39店、向洋駅が66店となっており（平成29年12月末現在）、矢野駅、向洋駅の飲食店数は海田市駅に比べ少なくなっている。また、消費金額をみると、海田市駅は他の駅に比べ消費額が多くなっており、飲食店の利用が影響しているものと考えられる。

【通勤通学】

- ・向洋駅はマツダ関連企業が多く所在していることが、「通勤通学」での利用が高くなっている要因と推測される。

【通院】

- ・「通院」は海田市駅と向洋駅で上位に上がっているが、矢野駅では通院目的が0%となっている。海田市駅は個人病院、向洋駅はマツダ病院が駅の近くに存在する。それに対し、矢野駅は済生会広島病院があるが、約徒歩20分の駅から離れた場所にあることが一因となっている。
- ・矢野駅の滞在時間が短くなっているのは、通院の有無も影響していると考えられる。

【公共施設】

- ・海田市駅は「公共施設の利用」が6.8%と他の駅に比べ高くなっている。これは安芸区図書館、安芸区役所、海田町役場などの利用があるものと考えられる。その他の駅の周辺には公共施設はみられない。

⑥滞在時間

- ・今回の調査では海田市駅、矢野駅、向洋駅周辺での滞在時間を聴取した。滞在時間合計では、「1時間未満」は3割台半ば、「1時間以上」は6割台半ばとなっている。
- ・駅別にみると、合計滞在時間（平均）は海田市駅が93分、向洋駅が91分、矢野駅が26分となっており、矢野駅の滞在時間が短くなっている。これは、先述の通り、通院、公共施設、飲食店の利用が少ないことが影響しているものと考えられる。

⑦消費金額

- ・平均消費額を駅別にみると、海田市駅が2,278円、向洋駅が2,053円、矢野駅が2,025円となっており、すべての駅で合計消費額は2,000円超となっている。
- ・今回の調査では、海田市駅は消費の目的が多岐にわたっている一方、矢野駅は買い物や飲食店での消費が中心となっている。
- ・平均消費額を目的別にみると、「理髪店等のサービス」、「通院」、「買い物」、「娯楽（インドア）」の順で消費額が高くなっている。
- ・合計消費金額（平均）は海田市駅が2,278円、向洋駅が2,053円、矢野駅が2,025円となっており、海田市駅の消費金額が約200円分多くなっている。

【図表 平均滞在時間（分）】

	全 体	海田市駅	矢野駅	向洋駅
①買い物	28	36	17	17
②飲食店	62	66	20	53
③クリーニング	0	0	0	0
④理髪店等のサービス	90	105	0	75
⑤通勤通学	60	20	0	62
⑥通院	109	72	0	127
⑦公共施設の利用	88	90	0	60
⑧アウトドアレジャー	300	0	0	300
⑨娯楽（インドア）	147	147	0	0
⑩その他	176	162	150	213
合計	85	93	26	91

【図表 平均消費金額（円）】

	全 体	海田市駅	矢野駅	向洋駅
①買い物	1,849	1,810	2,074	1,772
②飲食店	1,323	1,360	600	1,250
③クリーニング	0	0	0	0
④理髪店等のサービス	5,000	5,250	0	4,750
⑤通勤通学	453	360	0	458
⑥通院	2,623	3,069	0	2,408
⑦公共施設の利用	353	353	0	0
⑧アウトドアレジャー	1,000	0	0	1,000
⑨娯楽（インドア）	1,520	1,520	0	0
⑩その他	2,475	1,856	0	4,333
合計	2,166	2,278	2,025	2,053

【図表 駅利用状況のまとめ】

			海田市駅	矢野駅	向洋駅
利用者	性年齢		女性 40～60 歳代	女性 40 歳代、女性 60～70 歳代	女性 40 歳代、女性 60～70 歳代
	職業		専業主婦（主夫）、会社員、パート・アルバイト	会社員、学生、専業主婦（主夫）	会社員、無職、専業主婦（主夫）
	居住地区		安芸区、海田町	安芸区	府中町、安芸区、南区
移動手段			JR、徒歩、自転車	バス、徒歩、JR	JR、徒歩、自転車
利用時間	平日	行き	9 時～11 時、7 時～9 時、11 時～15 時	7 時～9 時、9 時～11 時、始発から 7 時	7 時～9 時、9 時～11 時、11 時～15 時
		帰り	15 時～17 時、17 時～19 時、11 時～15 時	17 時～19 時、15 時～17 時、19 時～21 時	17 時～19 時、15 時～17 時、11 時～15 時
	休日	行き	9 時～11 時、11 時～15 時、7 時～9 時	9 時～11 時、7 時～9 時、11 時～15 時	11 時～15 時、9 時～11 時、7 時～9 時
		帰り	17 時～19 時、15 時～17 時、11 時～15 時	15 時～17 時、11 時～15 時、17 時～19 時	17 時～19 時、11 時～15 時、15 時～17 時
利用目的			買い物、飲食店、通院	買物、仕事	通勤通学、通院、買い物
滞在時間(平均)			93 分	26 分	91 分
消費金額(平均)			2,278 円	2,025 円	2,053 円
H27 乗車人員 (1 日平均)			9,560 人	8,121 人	10,728 人
立地特性	公共施設	安芸区図書館、安芸区役所、海田町役場	—	—	
	観光・宿泊施設	海田シティホテル、海田中央ホテル	—	マツダミュージアム	
	商業施設	コープ、ウォンツ、マルシヨク、スーパードラッグひまわり、イオン	おかず工房、アーベル矢野店、フジグラン、万惣、ゲオ	万惣、藤三、フレスタ、クスリ岩崎チェーン、ウォンツ、エディオン	
	病院	個人病院	広島病院	マツダ病院、個人病院	
	学校等	小・中・高等学校、専門学校、自動車学校	保育園、小・中・高等学校	保育園・幼稚園・小学校	
	周辺状況	・駅北東側は住宅地 ・駅南側は学校が多く点在	・住宅地に囲まれている ・駅西側は工業地帯	・住宅地に囲まれている ・駅西側はマツダ広島本社、工場有り	
	付近の国道 県道	国道 2 号線 県道 151 号線、164 号線、197 号線、274 号線	国道 31 号線 県道 34 号線	県道 164 号線	
	バス	済生会広島病院前、北新地二丁目、広島バスセンター、海田総合公園/堀川町方面行きバス有り	熊野営業所/絵下山入口、矢野ニュータウン公園、広島国際大学、矢野ニュータウン南方面行きバス有り	矢野駅前/熊野営業所、広島バスセンター、桜ヶ丘・清水ヶ丘団地入口方面行きバス有り	
駅構造等	出入口 改札口	出入口 2 か所 改札口 1 か所	出入口 2 か所 改札口 1 か所	出入口 2 か所 改札口 2 か所	
	紹線名・方面	山陽線 西条・三原方面 広島・岩国方面 呉線 呉・広島方面 広島・岩国方面	呉線 呉・三原方面 広島方面	山陽線 広島・岩国方面 西条・三原方面 呉線 呉・広島方面	

5 今後の方向性

①消費者のニーズの把握

- ・今回の調査では地域の活動拠点である海田市駅、向洋駅、矢野駅の駅利用者の行動実態と消費実態に重点を置いて調査を行い、3駅の利用者特性が明らかになった。利用者の性年齢や職業、駅の利用目的、時間帯など利用者の特性に応じて、サービスの提供内容を検討することが重要である。
- ・さらに、今後は消費者意識に重点を置き、地域内での買い物とサービスの利用状況、満足度を調査し、消費者意識・行動をより詳細に分析することが求められる。また、地域に必要な店舗やサービスなど多様化する消費者のニーズを捉え、消費者のニーズにあった特色ある店舗づくりやサービスを提供することが重要である。

②商業の活性化のための取組の検討

- ・小規模事業者はディスカウントショップや郊外型の大型店舗への消費者の流出や、消費者ニーズの変化や需要の低下による売り上げの減少などさまざまな問題を抱えている。海田・府中・安芸地域についても、近年商店数は大きく減少しており、空き店舗もよく見られるようになった。
- ・このような状況の中、地域の商業機能の活性化を図るためには、商工会と地元商店の連携による消費者を巻き込んだイベントの開催や空き店舗の活用、店舗やまちづくりに関する情報発信などの取組が重要となる。下表にまちの賑わいや商業の活性化に効果的だった取組を「まちづくりの有望事例」としてまとめている。これらの事例を参考に、海田・府中・安芸地域の課題解決のために必要な取組を検討していく必要がある。

【まちづくりの有望事例】

市町村名	取組内容
新潟県新潟市	民間主体でのシャッター通り長屋の改修・テナントミックスによる空き店舗ゼロ達成
長野県佐久市	商店街が空き店舗を市民ニーズに応じてデザインし、賑わい施設に再生
鳥取県米子市	商店街のエリア毎のまちづくり会社による拠点づくりと相互連携による賑わい再生
島根県江津市	ビジネスプラン・コンテストや企業家支援体制構築による創業・移住の促進
愛媛県四国中央市	商店街の空き店舗を活用した多世代交流拠点づくりによる賑わいの創出
秋田県大仙市	まちなかへの都市機能の集約と地元商店主の新たなチャレンジによる賑わいづくり
埼玉県秩父市	商店街が主体となったナイトバザールや交流拠点の整備等による賑わい再生
佐賀県佐賀市	空き地を使ったコンテナ広場を核としたまちなかでの起業連鎖によるコミュニティ再生
宮崎県日向市	駅周辺再整備での官民連携のプロジェクトマネジメントによる賑わい拠点の形成

※詳細については参考資料に掲載している

参 考 資 料

1. 調査票

No.	調査場所	海田市駅・矢野駅・向洋駅	調査日	9/8・9/9	調査員名	
-----	------	--------------	-----	---------	------	--

駅利用者アンケート

※このアンケートは本日電車を利用する方を対象としています（予定も含む）

1-1. 性別	①男性	②女性		
1-2. 年齢	①20歳未満 ⑤50歳代	②20歳代 ⑥60歳代	③30歳代 ⑦70歳以上	④40歳代
1-3. 職業	①会社員 ④専業主婦（主夫） ⑦無職	②公務員・団体職員 ⑤パート・アルバイト ⑧その他（ ）	③自営業 ⑥学生	
1-4. お住まいの地区	①中区 ⑤海田町	②南区 ⑥坂町	③安芸区 ⑦呉市	④府中町 ⑧その他（ ）
1-5. 同居者	①配偶者 ⑤その他（ ）	②子ども	③孫 ⑥同居者はいない	④親

問1 現在の状況をお答えください。（1つに○）また、この調査票を受取った時刻はいつですか？

①電車に乗る	②電車から降りた	調査時刻：（ ）時（ ）分頃
--------	----------	----------------

問2 自宅の最寄り駅をお答えください。（1つに○）

①向洋駅	②海田市駅	③安芸中野駅	④中野東駅	⑤瀬野駅	⑥矢野駅	⑦坂駅
⑧水尻駅	⑨小屋浦駅	⑩広島駅	⑪天神川駅	⑫その他（ ）		

問3 自宅等から当駅まで、当駅から目的地までの移動手段について、下表より番号をお選び下さい。
また、目的地の施設名・所在地をご記入ください。
※交通機関を複数利用した場合は、最も所要時間が長いものを1つお選びください。

居住地	→	調査地点 (駅)	→	目的地（主要な目的地を1つお書きください）	
				施設名 (例) 病院	所在地 (例) 広島市中区紙屋町
①交通機関		②交通機関			

【下表：交通機関】

①JR ②バス ③タクシー ④自家用車 ⑤自転車 ⑥徒歩 ⑦その他（ ）

問4 当駅の利用頻度をお答えください。（1つに○）

①ほとんど毎日	②週3～4回くらい	③週1～2回くらい	④月2～3回くらい
⑥月1回くらい	⑦年に数回くらい	⑧年に1回以下	⑨初めて

問4で①～⑥を選択した方におうかがいします。

問5 当駅の主な利用時間をお答えください。（平日、休日別に行き・帰りの時間をお答えください）

平日	行きの時間 午前・午後_____時台	帰りの時間 午前・午後_____時台
----	--------------------	--------------------

休 日	行きの時間 午前・午後_____時台 帰りの時間 午前・午後_____時台
-----	---

問 6 この駅（海田市駅・矢野駅・向洋駅）周辺での本日の行動内容をお答えください。（予定も含めてお書きください）裏面に続きます

①～⑫のうち、利用目的すべてに○をつけ、それぞれ滞在時間と消費金額をお答えください。

利用目的	滞在時間	消費金額
(例)①買い物	(6 0) 分	(3, 5 0 0) 円
①買い物	() 分	() 円
②飲食店	() 分	() 円
③クリーニング	() 分	() 円
④理髪店等のサービス	() 分	() 円
⑤通勤通学	() 分	() 円
⑥通院	() 分	() 円
⑦公共施設の利用	() 分	() 円
⑧アウトドアレジャー	() 分	() 円
⑨娯楽（インドア）	() 分	() 円
⑩仕事		
⑪移動 （この駅周辺以外の目的地に行く場合）		
⑫その他 （)	() 分	() 円

～アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。～

2. まちづくりの有望事例

県名	市町村名	事業者名	事業内容
新潟県	新潟市	沼垂テラス商店街	・新潟駅北の信濃川河口近くにある沼垂地区において、シャッター通りとなった旧市場を再生するため、地元商店主が旧市場全体を買い取り、地域の暮らしを支える店や個性的な店を募り、長屋の古いたたずまいを残した「沼垂テラス商店街」として再生し、空き店舗を解消。 ・商工会議所等と連携した新規出店支援や、朝市等のイベント開催、名物づくり、商店街の店舗情報に限らず、地域の歴史等に関する情報をSNS等で発信するなどの取組により、来街者の増加につなげている。
長野県	佐久市	岩村田本町商店街	・中山道岩村田宿から続く市中心部の岩村田本町商店街において、将来への危機感を持った青年会が中心となり、商店街組織を一新し世代交代を実現。責任感と団結心の下、経営塾を結成し、将来ビジョンを研究。 ・「商店街はコミュニティの担い手」というビジョンに基づき、住民アンケート等から必要となる施設をデザインし、空き店舗を活用して起業育成施設、子育て支援施設、学習塾等に再生。
鳥取県	米子市	中心市街地の商店街	・空き店舗が急増した街中の商店街において、タウンマネージャーの助言等により、商店街のエリア毎に有志らによりまちづくり会社を設立。各自が身の丈にあった事業を実施することで、事業リスクを抑えつつ、独自性を持ったまちづくりを実施。さらに相互連携したイベント開催等により、まちなかの賑わい再生に貢献。
島根県	江津市	NPO法人、企業家支援コンソーシアム、空き家バンク	・空き家バンク等の受け身のUIターン促進策だけでは、リーマンショックを機に移住希望者が減少したことから、攻めの対策に転換。挑戦意欲のある若者を発掘し、地域の課題解決につながるビジネスを募集する「ビジネスプラン・コンテスト (Go-con)」を開催。 ・官民連携により、受賞者等の創業サポート環境を構築したことで、空き店舗を活用した創業・移住者が増加。
愛媛県	四国中央市	川之江栄町商店街	・まちなかの川之江栄町商店街において、空き店舗を活用し、市内各地や個人の情報発信拠点として「みんなの広場『四国中央ドットコム』」を整備。NPO法人「にっこり〜の」と協働しコミュニティスペースとして運営。 ・高齢者のクラブ・サークルや子育て世代の活動の場を提供することで、まちなかに人を呼び込むことに成功。四国中央ドットコム周辺の空き店舗に観光物産館や、カフェ等の店舗の開設につながっている。

県名	市町村名	事業者名	事業内容
秋田県	大仙市	中心市街地	・地域中核病院の移転など、医療・福祉・健康・交通等の都市機能をまちなかに集約し、交流結節点として賑わいを生み出すとともに、商店街への回遊機会を創出。 ・地元商店主らが中心となって設立されたまちづくり会社「ひなび大曲」が、特に女性をターゲットに新たな都市集積からの人の流れを商店街に呼び込むため、古い内臓を商店、交流施設を兼ねるまちなか拠点施設としてリノベーションするなど、新たな顧客獲得の取組を進めている。
埼玉県	秩父市	みやのかわ商店街	・秩父駅前に位置するみやのかわ商店街では、「できるものは何でも挑戦する」という姿勢で、約 30 年にわたりナイトバザールを継続開催するなど、リピーター・お得意先づくりに取り組むことで、空き店舗ゼロを達成。 ・手助けが必要な高齢者の日常生活の支援や地域住民の交流拠点の整備といった、高齢化社会のニーズにいち早く対応することで、地域貢献を図るとともに商店街の賑わい再生につなげている。
佐賀県	佐賀市	民間事業者、NPO 法人ユマニテさが	・まちづくり会社が借り受けた空き地に、民間の知恵をいかして、低コストのコンテナを活用したコミュニティスペースや図書館等を設置。住民と協働で管理し、多世代が交流するまちの賑わい拠点を形成。 ・ここを拠点に周辺の空き店舗等が様々な店舗、シェアハウス等に生まれ変わる連鎖が発生。空き店舗と企業家のマッチングも始まり、町の回遊性の向上、コミュニティ再生による地域価値の向上につながっている。
宮崎県	日向市	駅前交流広場、駅前商店街	・鉄道により分断されていた駅前を立体交差化し、駅前交流広場等を整備。検討段階から市民が積極的に参画し、駅舎等に地元産の杉を多く使用するなど、交流広場への愛着や管理・活用意識が生まれ、市民主体の美化活動やイベント企画による地域コミュニティ活性化、賑わいの創出に寄与。 ・駅前商店街において、地元木材を活用したまちづくりのコンセプトの下、魅力ある商業集積事業を展開。
東京都	品川区	中延商店街	・半径 700m 内に約 1 万人近い高齢者が住む中延商店街では、高齢者対応が街づくりの課題と考え、地域通貨を使った有償ボランティアサービス、「街のコンシェルジュ」を導入。登録も利用も商店街の半径 700m 内に住む人に限定し、利用者はクーポン券綴を購入し、受けたサービスに応じてクーポン券で支払う。そのクーポン券は地元で使える 500 円の共通商品券に交換され、商店街にも貢献する「地域循環型のシステム」となっている。
新潟県	新潟市	新潟市上古町商店街	・大型店舗の進出や商店主の高齢化などによる町の衰退に歯止めをかけるべく「上古町まちづくり推進協議会」を発足。情報発

県名	市町村名	事業者名	事業内容
			信の重要性を認識し、情報発信ツールを整備し商店街に足を運んでもらうため、「上古門前市」や「かみふるまち食の福袋」など個性的なイベントを開催。 ・商店街振興組合の設立後、老朽化したアーケードを改修。「商店街の雰囲気に着かれた」、「商店街の雰囲気と店のコンセプトが合う」という理由から若手経営者による個性的な店舗が増え、空き店舗率は年々減少し、店舗やまちの温かい雰囲気などが話題を呼び、来街者も増加。県内外からの出店希望の打診や、他商店街からの視察も多く訪れている。
新潟県	新潟市	旧新津市の中心市街地	・中心市街地の空洞化が進展し、空き店舗率が増加。空き店舗対策の一環として「家賃スライド制」を導入した。物件所有者が最小限必要な費用を「物件賃借料」として定めてテナントを募集するため、テナント側では「賃借料（家賃）」が抑えられ固定費の負担が軽減、物件所有者も毎年度必要最低限の収入が確保でき、毎年度契約を更新するため不動産会社にも手数料収入が入り3者がそれぞれ得をする制度となっている。 ・この取り組みが始まり、4ヶ月で2件の賃貸契約が締結、これまで人通りが少なかった商店街の一角に、元気で楽しい声が響き渡るようになった。
香川県	観音寺市	中心市街地商店街	・かつてまちなかにはパン屋が多かったのが大型店の出店等で減少し、現在の商店街には衣料品店が多く業種の偏りがある現状をみて、観音寺が発祥の地である「ショッピング・イン・ショップ」を発展させ、商店街の個店に臨時にパン店が出店する「パン・ストリート」を企画。香川県を中心に四国各地から32店舗が出店した。 ・イベント情報はチラシだけではなく、SNSを通じて情報発信したことにより、遠方からの来場も多く、1万人が来場した。商店街の自主財源でこれほどの集客を生み出したことは大きな事業成果となり、観音寺のまちなかで出店を検討するパン店もあった。この取り組みは、地元の生活者に商店街を再認識する契機となるとともに、SNSなどを通じて広域からの集客の可能性が見られた。
愛知県	岡崎市	中心市街地商店街	・隣の豊田市にあるトヨタ自動車の関連企業の進出により、ベッドタウンとして人口の微増が続いているが、中心市街地では、モータリゼーションの進展や大規模集客施設の中心市街地外への出店による衰退が顕著となり、まちの課題と活性化への取組として「まちゼミ」を開催。 ・商店主が講師となって、専門的な知識や情報、技術等を無料でお客さんに伝えることで、新規顧客の獲得や信頼関係作り、新規顧客のニーズを直接把握し店舗作りに活かせるというメリットがあり、商店街にとっても店を一斉に紹介でき、商店街全体

県名	市町村名	事業者名	事業内容
			のアピールにつながる。お客さんも、「商店街に来やすくなった」、「信頼できる店に出会えた」など満足度が高く、参加者も年間 3,000 人となっている。
福岡県	久留米市	中心市街地エリア商業	・中心市街地エリアの南北に大型病院が 2 つあり、県内外からの通院や見舞いに訪れる人が多く、公共交通機関を利用する高齢者などは中心市街地を経由するため、回遊性の向上が求められている。このような状況を背景に、「人に優しいスローライフが輝く街」を基本コンセプトとし、高齢者や障がい者の外出を手助けする「タウンモビリティ」や、空きビルを活用した生涯学習拠点「六ツ門大学」、地域の食文化を広く発信する「B 級グルメの聖地（まち）事業」を実施。 ・事業は地域に定着し継続的に取組まれており、来街や賑わい創出面で効果を発揮。活動を進めるなかで NPO をはじめとする市民活動グループが育成され、今後、地域活性化やコミュニティづくりの分野で大きな力になることが期待されている。
福井県	小浜市	小浜駅通り商店街	・小浜駅通り商店街では、減少傾向にあるにぎわいを取り戻そうと、老舗旅館の廃業に伴い譲り受けた建物を改修し「はまかぜプラザ」としてオープン。定期的なイベントによりお店のファンづくりや売上に結び付く仕掛けをしている。 ・毎朝 10 時に商店街のスピーカーからラジオ体操を流し、店主などが各店舗の前に並び「ラジオ体操」を行い、店主などが毎朝顔を合わせることで、店主同士などの関係づくりに寄与している。
東京都	青梅市	青梅市中心市街地	・青梅市の中心市街地では、商業者の高齢化や後継者不足などにより商業機能が低下。中心市街地の一部について空き店舗の調査を行い、空き店舗増加の危機感が関係者間で共有されていたことを背景とし、空き店舗対策事業「アキテンポ不動産」を立ち上げる。物件情報は、ギャラリー、ツアー、Facebook ページほか、複数の手段で発信を行い、貸主と借主のマッチングを重視し契約をすすめ開業者を呼び込む取り組みとなっている。

資料：平成 29 年 3 月内閣府地方創生推進事務局

「稼げるまちづくり取組事例集『地域のチャレンジ 100』」

資料：独立行政法人 中小企業基盤整備機構「まちかつ！ちいきクローズアップ」

(<http://machi.smrj.go.jp/machi/closeup/bunrui.html>)

【新潟県新潟市】民間主体でのシャッター通り長屋の改修・テナントミックスによる空き店舗ゼロの達成

- ・新潟駅北の信濃川河口近くにある沼垂(ぬつたり)地区において、シャッター通りとなった旧市場を再生するため、地元商店主が旧市場全体を買い取り、地域の暮らしを支える店や個性的な店を募り、長屋の古いたたずまいを残した「沼垂テラス商店街」として再生し、空き店舗を解消。
- ・商工会議所等と連携した新規出店支援や、朝市等のイベント開催、名物づくり、商店街の店舗情報に限らず、地域の歴史等に関する情報をSNS等で発信するなどの取組により、来街者の増加につなげている。

主なハード事業

○「沼垂テラス商店街」の再生

- ・旧市場の長屋が連なる沼垂地区において、シャッター通りの再生を目指し、地元商店主が株式会社テラスオフィスを設立(平成26年)。銀行融資により、200mに及ぶ長屋店舗一帯を買い取って管理・運営。
- ・市場があった時には組合員以外が借りる際に制限があったが、会社が運営することにより、地域の暮らしを支える店(惣菜、カフェ等)、ここにしかないものをつくって発信する店(オリジナル雑貨店等)をコンセプトに出店者を募集。賃料を抑えるなどの工夫により、意欲のある若者が出店しやすい仕組みをつくり、インターネットを活用した情報発信や口コミにより問い合わせが増加。
- ・約25の店舗からなる「沼垂テラス商店街」として再生し、空き店舗ゼロを実現。



再生

○古民家を活用したサテライト店「沼垂テラス・エフ」の整備

- ・商店街周辺の古民家(空き店舗)を活用したサテライト店舗として、本屋とゲストハウス等を開業。商店街から周辺地域へと賑わいを波及させている。

主なソフト事業

○出店希望者への経営相談

- ・商工会議所等と協力し、出店希望者の事業プランや資金調達方法等について専門的なアドバイスを提供。

○集客イベントの開催

- ・商店街店主らがイベント実行委員会を結成し、市内外の雑貨店・スイーツ店を交えて、毎月1回朝市を開催。歩行者天国にし、常設店に加え、約30店舗のテントが並ぶ。オリジナルモーニングメニューやワークショップなど、毎回出店内容に変化を持たせている。

○商店街の名物づくり

- ・商店街の再生を機に、商店街の名物となるお菓子を開発。季節限定商品の発売等の工夫で種類を充実させ、随時話題を提供。

＜官民協働＞

- 【民】地元商店主による株式会社を中心とした商店街のテナント調整、商工会議所等と連携した創業支援
- 【官】イベント開催への支援、周辺環境の整備

＜市の総合戦略における関連KPI＞

- ・創業支援事業計画に基づく延べ創業支援件数:
1,085件/年(H27)→1,200件/年(H32)

今後の取組

- ・商店街周辺の歴史ある小路への人の流れや賑わいの波及

【長野県佐久市】商店街が空き店舗を市民ニーズに応じてデザインし、賑わい施設に再生

- ・中山道岩村田宿から続く市中心部の岩村田本町商店街において、将来への危機感を持った青年会が中心となり、商店街組織を一新し世代交代を実現。責任感と団結心の下、経営塾を結成し、将来ビジョンを研究。
- ・「商店街はコミュニティの担い手」というビジョンに基づき、住民アンケート等から必要となる施設をデザインし、空き店舗を活用して起業家育成施設、子育て支援施設、学習塾等に再生。

主なハード事業

○空き店舗を活用した地域密着型施設の整備

- ・岩村田本町商店街振興組合が中心となり、住民アンケート等に基づき、空き店舗の活用策をデザイン。国、県の補助金を活用し、地域コミュニティの集い場「おいでなん処」、手づくり惣菜の店「本町おかず広場」、若手起業家の育成施設「本町手仕事村」のほか、「岩村田寺子屋塾」、「子育てお助け村」などの地域密着型施設を整備。

○「つどいの館 こてさんね」の整備

- ・岩村田本町商店街振興組合が中心となり、国、市の補助金を活用し、地域の新たな交流拠点として、飲食店7店舗や会議室、コミュニティスペースを備えた「つどいの館こてさんね」を開設。
- ・飲食テナントは、若手飲食起業家のためのチャレンジショップとしての機能も持ち、今までの商店街には見られない集客力を持った地域の人の憩いの施設に育っている。



岩村田本町商店街 空き店舗数



主なソフト事業

○青年会が商店街組織を一新

- ・郊外に大型店が進出し、商店街の売上が減少する中、危機感を持った青年会を中心に振興組合を設立し、商店街組織の世代交代を実現。
- ・世代交代により「自分たちがやらねば誰がやる」という強い団結心を醸成。
- ・経営塾を結成し、まちの将来ビジョン「未来予想図」を研究。

○電子マネー・ポイントカードの発行

- ・岩村田本町商店街各店舗とイオングループが連携し、商店街で買い物する毎にイオンと商店街のダブルポイントが付くカードを発行し、商店街への集客力を拡大。



○子育て世代の会員制度「子育て村」

- ・岩村田本町商店街振興組合が、子育て世代の商店街への回帰を目指し、商店街の加盟店舗で構成される「子育て村」として体験教室等のイベントを実施。無料会員に加盟店での特典等も提供。

＜官民協働＞

- 【民】青年会が中心となった岩村田本町商店街振興組合が将来ビジョンを描きつつ、空き店舗改修やイベント開催を実施
- 【官】商店街の自主的な取組に対する財政面等での支援

＜市の総合戦略における関連KPI＞

- ・空き店舗対策事業を活用した創業件数:
25件(平成27～31年度の累計)(平成26年度は2件)

今後の取組

- ・商店街のみならず、行政、住民、地域金融機関、学校等を交えて、平成26年から作成に取り組む「未来予想図」を基に、老朽化した商店街をソフト面、ハード面ともに構築し直す方策を含め、市の強みである健康長寿のまちづくり計画について、地元諸団体及び行政と連携しながら策定する。

【鳥取県米子市】商店街のエリア毎のまちづくり会社による拠点づくりと相互連携による賑わい再生

・空き店舗が急増したまちなかの商店街において、タウンマネージャーの助言等により、商店街のエリア毎に有志によりまちづくり会社を設立。各自が身の丈にあった事業を実施することで、事業リスクを抑えつつ、独自性を持ったまちづくりを実施。さらに相互連携したイベント開催等により、まちなかの賑わい再生に貢献。

主なハード事業

○にぎわいトライアングルの形成

・まちなかのさらにまちなかを「にぎわいトライアングルゾーン」と名付け、賑わい拠点の創出と拠点のネットワークにより、にぎわいの周辺波及効果を誘発を図る。



○商店街の環境整備と核となる施設づくり

・平成20年、中心市街地活性化基本計画策定を機に、まちなかの法勝寺町商店街の有志がまちづくり会社「株式会社法勝寺町」を設立。アーケードの撤去から始め、市民要望を踏まえ、舗装、植栽等により商店街を明るくすることで、空き店舗への新規出店を誘発(平成22年)。
・株式会社法勝寺町は、タウンマネージャーの助言等を受け、築120年の三連土蔵を飲食・セレクトショップ・多目的スペース等の複合アンテナショップに再生。ここで経験を積んだ店主が近隣の空き店舗に新規出店するなど、チャレンジショップとしても機能。

○エリア毎のまちづくり会社の設立

・商工会議所やタウンマネージャーにより、若手経営者等の起業を支援する中、トライアングルゾーンの複数エリア毎にまちづくり会社が設立(平成22年時点5社)。
・築150年の古民家を飲食・カルチャースペース等の複合施設に再生、旧銀行店舗をFMスタジオ・カフェ等の若者向けコミュニティ拠点に再生するなど、各エリアで拠点施設を整備(平成22年)。

主なソフト事業

○商店街間の連携によるイベント同時開催

・米子の商人がお店の戸板を外して商品を並べ商売していたことに因み、複数の商店街エリアが連携してイベントを同時開催。



《官民協働》

【民】・エリア毎にまちづくり会社を設立、拠点施設を整備
・商店街が連携したイベント開催
【官】・空き店舗への出店支援
・植栽等の環境整備の支援

中心市街地の商店街空き店舗率



《市の総合戦略における関連KPI》

・中心市街地商店街空き店舗への出店数 113店舗
(平成27年度～平成31年度累計)

今後の取組

・まちなかで案内板の設置や定期的なイベントを実施することにより、まちなかの魅力を知ってもらい、観光客のまちなか誘致につなげる。
・「まちなかを巡るモニターツアー」や「プロガーを活用した情報発信」を行い、新たな利用者層の獲得につなげる。

【鳥根県江津市】ビジネスプラン・コンテストや起業家支援体制構築による創業・移住の促進

・空き家バンク等の受け身のUターン促進策だけでは、リーマンショックを機に移住希望者が減少したことから、攻めの対策に転換。挑戦意欲のある若者を発掘し、地域の課題解決につながるビジネスを募集する「ビジネスプラン・コンテスト(Go-con)」を開催。
・官民連携により、受賞者等の創業サポート環境を構築したことで、空き店舗を活用した創業・移住者が増加。

主なソフト・ハード事業

○ビジネスプラン・コンテスト開催

・挑戦意欲のある若者を発掘し、地域の課題解決につながるビジネスを募集する「ビジネスプラン・コンテスト」を平成22年より開催。
・これを契機に、地域の「創業支援」「人材育成」「駅前活性化」事業を行う官民連携組織として、地元企業等が中心となってNPO法人でごねっと石見が設立され、コンテストを市から受託開催。



○起業家支援コンソーシアム結成

・官民連携により起業家支援コンソーシアムを結成し、ビジネスプラン・コンテスト受賞者や参加者の創業サポート環境を整え、事業計画指導やビジネスマッチング等を実施。

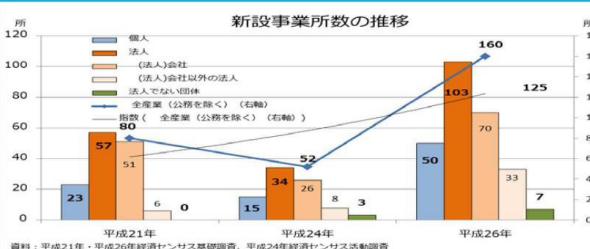


○創業支援と連携した空き店舗の活用

・ビジネスプラン・コンテスト、NPO法人でごねっと石見等による創業支援と連携し、受賞者等に空き店舗の情報を提供。
・平成24年以降、駅前地区では空き店舗46件中20件で新規出店・事務所を開設。



古民家改修レストラン「風のえんがわ」



《官民協働》

【民】NPO法人や起業家支援コンソーシアムによる創業支援
【官】空き家バンクの運営、ビジネスプラン・コンテストの開催等

《市の総合戦略における関連KPI》

・新規創業支援者数 30人(平成27年～平成31年)
・新規創業件数 12件(平成27年～平成31年)

今後の取組

・地域の特色ある取組やまちづくりの動き、活躍する人や企業等を魅力ある情報に再構築して発信し、シティプロモーションを強化。

【愛媛県四国中央市】商店街の空き店舗を活用した多世代交流拠点づくりによる賑わいの創出

- ・まちなかの川之江栄町商店街において、空き店舗を活用し、市内各地や個人の情報発信拠点として「みんなの広場『四国中央ドットコム』」を整備。NPO法人「にっこり〜の」と協働しコミュニティスペースとして運営。
- ・高齢者のクラブ・サークルや子育て世代の活動の場を提供することで、まちなかに人を呼び込むことに成功。四国中央ドットコム周辺の空き店舗に観光物産館や、カフェ等の店舗の開設につながっている。

主なハード事業

○空き店舗を活用した多世代交流拠点の整備

- ・市の中心市街地にある川之江栄町商店街では、課題であった日常の賑わいづくりと空き店舗解消のため、商店街が中心となり、空き店舗を再生・活用し、情報発信拠点・コミュニティスペースとして「みんなの広場『四国中央ドットコム』」を開業・運営（H16年）。
- ・1階はコミュニティスペースや、住民の手作り品の展示・委託販売等に利用できるレンタルボックス、地元産品等を販売するスペースを配置。2階は未就園児の親子が集う子育て支援スペース「にっこり〜の」を設置。高齢者から赤ちゃんまで多世代が集うコミュニティスペースとしてNPO法人「にっこり〜の」が運営。



- ・レンタルボックスの利用がきっかけで、地元主婦のグループが空き店舗を活用して手作り雑貨の店を開業。その後も、商店街の空き店舗で民間の介護施設、観光物産館や地産鮮魚等の販売所、カフェ等が次々と開設された。
- ・地域コミュニティ活性化の場を提供することで、足しげく通うファンが生まれ、来街者が増加し、飲食店や一部の買い回り品等の売り上げが約3%増加。

主なソフト事業

○高齢者・子育て世代の活動の場・居場所の提供

- ・四国中央ドットコム1階のコミュニティスペースでは、高齢者向けのパソコンクラブや手芸サークル等の活動に利用され、アクティブシニアの活動が活発になった。
- ・2階の「にっこり〜の」には保育士ほか3名が常駐し、読み聞かせ、ベビーマッサージ等の各種イベント、育児相談や低料金での一時預かりサービスを実施。市内外から毎月1,000人以上の利用がある。

○一般市民発信のイベントや活動などを積極的に支援

- ・必要とされる商店街を目指し、商店街主催の各種イベントの継続的実施。市民が望むこと・やりたいイベント等を協働で開催。

＜官民協働＞

- 【民】川之江栄町商店街、NPO法人「にっこり〜の」との連携による「四国中央ドットコム」の運営
- 【官】空き店舗解消への支援等

＜市の総合戦略における関連KPI＞

- ・年間起案件数 4件（H26）⇒ 8件（H31）

今後の取組

- ・公共施設や空き家、商店街の空き店舗を活用したレンタルオフィスの提供・斡旋を通じたベンチャー企業の創業促進

26

【秋田県大仙市】まちなかへの都市機能の集約と地元商店主の新たなチャレンジによる賑わいづくり

- ・地域中核病院の移転など、医療・福祉・健康・交通等の都市機能をまちなかに集約し、交流結節点として賑わいを生み出すとともに、商店街への回遊機会を創出。
- ・地元商店主らが中心となって設立されたまちづくり会社「ひなび大曲」が、特に女性をターゲットに新たな都市集積からの人の流れを商店街に呼び込むため、古い内蔵を商店、交流施設を兼ねるまちなか拠点施設としてリノベーションするなど、新たな顧客獲得の取組を進めている。

主なソフト・ハード事業

○中心市街地活性化基本計画により各種都市機能を集約

- ・市街地再開発事業により、JR大曲駅前に地域中核拠点病院「大曲厚生医療センター」を移転改築（H26）したほか、認定こども園（定員180名）等の新たな機能を導入（H27）したことで、新たな人の流れを創出。
- ・㈱TMO大曲が中心市街地内にある交流施設等に受診待機情報等を表示するモニターを設置（H26）。受診までの空き時間を利用したまちなか回遊、商店街等での購買機会を創出。

○まちなかの内蔵を商店兼交流施設にリノベーション

- ・やる気のある商店主らが新たにまちづくり会社「ひなび大曲」を立ち上げ、商店街の築80年余りの内蔵をリノベーションし、まちづくりの核となる施設「毎日大曲」を開業（H28）。

○地元商店主の自由な発想による取組

- ・地元デザイナーと協力し、30代～40代女性をメインターゲットに、季節野菜のピクルスなど、地元の素材や伝統を取り入れた魅力ある独自ブランド商品を開発し、「毎日大曲」で販売。
- ・秋田の歴史ある酒蔵とのタイアップにより、「毎日大曲」限定の日本酒を製作。
- ・商店街マップ作成やまちゼミ、ご当地グルメPR等のイベント開催。

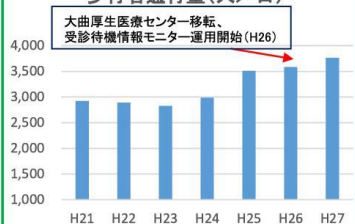


毎日大曲 外観



毎日大曲 店内

歩行者通行量（人／日）



＜官民協働＞

- 【民】既存の商店街組織にとらわれず、地域でやる気のある商店主を募って取組を実施
- ・まちづくり会社「ひなび大曲」では、多様な企業経営者が参加しやすく、各々の人脈やノウハウ等を活かせるよう、組合員の出資額の限度でしか事業責任を負わないLLP（有限責任事業組合）制度を活用
- ・取組の構想段階から地元メディアと連携してPR
- 【官】中心市街地活性化制度による都市機能集積づくり
- ・建物改修や商品開発への財政支援

＜市の総合戦略における関連KPI＞

- ・中心市街地における歩行者通行量 3,584人／日（H26）⇒ 4,300人／日（H31）
- ・新規開店支援助成件数 5件（H26）⇒ 7件（H31）

今後の取組

- ・新たに生じた人の流れを活かし、より地域資源と個店の魅力を高めることで、商店数増加や空き店舗解消につなげる。

88

【埼玉県秩父市】商店街が主体となったナイトバザールや交流拠点の整備等による賑わい再生

- ・秩父駅前に位置するみやのかわ商店街では、「できるものは何でも挑戦する」という姿勢で、約30年にわたりナイトバザールを継続開催するなど、リピーター・お得先づくりに取り組むことで、空き店舗ゼロを達成。
- ・手助けが必要な高齢者の日常生活の支援や地域住民の交流拠点の整備といった、高齢化社会のニーズにいち早く対応することで、地域貢献を図るとともに商店街の賑わい再生につなげている。

主なソフト事業

○商店街主催ナイトバザール(夜市)の先駆け

- ・空き店舗が増加する商店街活性化のため、みやのかわ商店街振興組合により、消費者の生活行動が夜型に移行していることに着目し、「秩父の夜祭」にヒントを得て、昭和62年からナイトバザールを実施。
- ・19時から21時までメイン通りを歩行者天国とし、福引き、出店等や各商店の独自サービスを行うほか、来街者を飽きさせない毎回異なるイベントを実施。
- ・来街者の増加につながり、平成3年頃には空き店舗ゼロを達成。
- ・現在は年5回土曜日に開催。平成28年までに270回連続開催。

○出張商店街「楽楽屋」

- ・外出困難な高齢者を商店街として支援するため、単に注文した商品を届けるだけでなく、店頭であれこれ商品を選ぶ買い物をしたというニーズに応え、週3日ほど高齢者施設や山間地域に商店街ごと出張して商品を陳列・販売。



出張商店街「楽楽屋」

○ボランティアバンクおたすけ隊

- ・地域商品券を活用して、元気な高齢者等が買い物代行や掃除等のボランティア活動を行う仕組みを平成19年に構築。
- ・利用者は1時間800円のチケットを購入し、謝礼としてボランティアに渡す。ボランティアは2時間分のチケットで地域商品券と交換して市内約450店舗で利用可能。
- ・ボランティアは月30件ほど利用されている。



おたすけ隊任命式

主なハード事業

○ほっとすぽと秩父館

- ・商店街の中心にあり、空き家状態となっていた旧商人宿を商店街振興組合が借り受け、平成19年に交流拠点施設としてリノベーション。
- ・商店街振興組合の事務局を置くとともに、高齢者を始めとした地域住民のたまり場、観光客の休憩所・情報発信の場として活用。
- ・地域の人が手芸品や陶芸品を展示販売する70を超えるレンタルボックス、地元野菜の販売コーナー等を設置。
- ・2階の多目的スペースではイベントや宴会等に利用。無料Wi-Fiスポットを設置するなど、若者を集める工夫を行っている。



《官民協働》

【民】商店街主体の柔軟な発想と失敗を恐れない姿勢、地域のニーズを捉えた取組

【官】環境整備等のハード事業における資金面の支援

《市の総合戦略における関連KPI》

・年間入込観光客数 469万人(H26) ⇒ 600万人(H31)

今後の取組

- ・イベントの効果が波及しにくい小売店舗の魅力向上

【佐賀県佐賀市】空き地を使ったコンテナ広場を核としたまちなかでの起業連鎖によるコミュニティ再生

- ・まちづくり会社が借り受けた空き地に、民間の知恵を活かして、低コストのコンテナを活用したコミュニティスペースや図書館等を設置。住民と協働で管理し、多世代が交流するまちの賑わい拠点を形成。
- ・ここを拠点に周辺の空き店舗等が様々な店舗、シェアハウス等に生まれ変わる連鎖が発生。空き店舗と起業家のマッチングも始まり、まちの回遊性の向上、コミュニティ再生による地域価値の向上につながっている。

主なハード事業

○コンテナを活用した交流広場の設置

- ・空き地を住民の手で芝生広場に再生し、中古コンテナを活用した市民交流施設、図書室、チャレンジショップを設置。(H24)
- ・広場を中心に賑わいが生まれたことにより、周辺に店舗等が増加するなど、波及効果が現れつつある。



チャレンジショップ

コンテナの設置による周辺への波及効果



赤:コンテナ広場
緑:新規店舗出店(10店)
オレンジ:公的施設

主なソフト事業

○コンテナ設置への市民参加

- ・広場づくりへの市民参加を促し、市民による空き地の利活用・維持管理を目指す。

○チャレンジショップとして活用

- ・出店やギャラリーとしての利用など、市民のアイデアと工夫で様々な使い方ができる。

○オープンシャッタープロジェクト

- ・民間主導で、複数の空き店舗を期間限定で一斉に開けるプロジェクト
- ・平成27年12月までに3回実施し、計35テナントが出店。うち2店舗の本格出店につながった。



《官民協働》

【民】佐賀市出身の民間事業者が提案し、商店、企業等が整備に協力

【官】社会実験として管理・運営業務をまちづくり会社(NPO法人ユマニテさが)に委託。

《市の総合戦略における関連KPI》

- ・佐賀市に住み続けたいと感じている市民の割合 57%(H25)⇒60%(H31)
- ・中心市街地の主要商店街の通行量 72,168人(H26)⇒125,000人(H31)

今後の取組

- ・更なる賑わい創出のため、街なかの遊休不動産の活用を促進するための資金制度を運用、水辺空間との調和による魅力向上

【宮崎県日向市】駅周辺再整備での官民連携のプロジェクトマネジメントによる賑わい拠点の形成

- ・鉄道により分断されていた駅前を立体交差化し、駅前交流広場等を整備。検討段階から市民が積極的に参画し、駅舎等に地元産の杉を多く使用するなど、交流広場への愛着や管理・活用意識が生まれ、市民主体の美化活動やイベント企画による地域コミュニティ活性化、賑わいの創出に寄与。
- ・駅前商店街において、地元木材を活用したまちづくりのコンセプトの下、魅力ある商業集積事業を展開。

主なソフト・ハード事業

○日向市駅周辺再整備プロジェクト

- ・JR日豊本線によりまちなかが東西に分断され、アクセシビリティの低かった日向市駅前を連続立体交差化し、利便性を改善。あわせて駅舎、芝生広場や野外ステージを整備（H18年～H22年）。
- ・基本構想の段階から、まちなかの住民や駅前商店街の事業者、建築等の専門家、行政等による駅前広場整備検討委員会を開催。様々な分野の意見・ニーズを取り入れながら、駅前広場等の整備について検討。
- ・検討段階からの市民参加、小中学生を対象とした課外授業や駅舎に使われる素材の工場見学も実施し、市民による施設の管理・活用の意識を醸成。住民が草花の植え替えを実施するなどにより、維持管理費用を低減。市民企画のイベント開催回数や集客数も大幅に増加。



○統一デザインによる駅周辺商店街の再生

- ・駅周辺再整備にあわせ、日向市駅前の商店街でも、街区ごとにコンセプトを定め、商業機能を集積。
- ・リーディングプロジェクトとして、「生活価値創造の場を提供するパティオ」をコンセプトに店舗の集団化を図る「ひゅうが十街区パティオ」を整備（H14年）。
- ・その後、店舗のギャラリー化と共同駐車場の整備を図る「リーフギャラリー」（H15年）、「木とぬくもりと学生のあふれるまちづくり」をコンセプトにし、7つの住居併用型店舗からなる「モビール13」（H16年）など、個性的な商業集積が誕生。
- ・日向市中心市街地活性化基本計画では、「木を活かしたまちづくり」を進めており、地元商店街等が地元木材を活用した店舗建築を呼び掛け。



＜官民協働＞

- 【民】駅周辺再整備プロジェクトへの検討段階からの市民等の参画、市民交流イベント等の実施、市民による駅前広場の管理活動への参加等
- 【官】駅周辺再整備プロジェクトの実施、イベント等市民活動への支援等

＜市の総合戦略における関連KPI＞

- ・観光客入込客数 1,630,000人 (H31)

今後の取組

- ・日向市駅を起点とした周遊観光ルートの構築による宿泊や滞在時間延長につながる観光商品づくり

【まちかつ！ちいきクローズアップ】

市町村名	URL
東京都品川区	http://machi.smrj.go.jp/machi/closeup/town/070928nakanobe.html
新潟県新潟市 (新潟市上古町商店街)	http://machi.smrj.go.jp/machi/closeup/town/120817niigata.html
新潟県新潟市 (旧新津市の中心市街地)	http://machi.smrj.go.jp/machi/closeup/town/101001niitsu.html
愛知県岡崎市	http://machi.smrj.go.jp/machi/closeup/town/111118okazaki.html
香川県観音寺市	http://machi.smrj.go.jp/machi/closeup/town/170118kanonji.html
福岡県久留米市	http://machi.smrj.go.jp/machi/closeup/town/120928kurume.html
福井県小浜市	http://machi.smrj.go.jp/machi/closeup/town/120120obama.html
東京都青梅市	http://machi.smrj.go.jp/machi/closeup/town/160715ome.html

駅利用者調査 報告書

平成 29 年 11 月

広島安芸商工会

〒736-0052 広島県安芸郡海田町南つくも町 5-15

TEL : 082-822-3728 FAX : 082-822-0924

府中町商工会

〒735-0021 広島県安芸郡府中町大須 1-10-10

TEL:082-282-1859 FAX:082-282-1803

広島東商工会

〒739-0321 広島県広島市安芸区中野 5-20-3

TEL:082-892-0873 FAX:082-892-2656